

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

報告事項件名	頁
(教育指導部)	
(1) 「足立区教育振興ビジョン」の修正について……………	2
(2) 学校図書館利活用推進プランの策定について……………	4
(3) 学校と保護者の連絡ツールに関する保護者アンケートの結果について……………	6
(4) AIドリル小学校低学年での試行利用状況について……………	8
(5) 英語教育グランドデザインの策定について……………	10
(6) 足立区立中学校不登校未然防止事業の利用生徒の状況とモデル校の拡大(案)について…	12
(7) 足立区立辰沼小学校におけるいじめ防止対策について……………	14
(8) 「令和5年度第2回学習者用デジタル教科書の効果検証調査」報告について…	16
(9) 図書館を使った調べる学習コンクール全国コンクールの結果について……………	29
(10) 流山市立おおぐろの森中学校視察結果の報告について……………	31
(学校運営部)	
(11) 東湊江小学校改築時における仮設校舎について……………	33
(12) 「給付型奨学金」「返済支援助成」の課題検討(案)について……………	35
(13) 足立区学校保健統計書(令和4年度実績)の概要について……………	38
(14) 物価高騰による学校給食費の増額(案)について……………	40
(15) 令和6年度公益財団法人足立区生涯学習振興公社の事業計画及び収支予算について…	別添
(子ども家庭部)	
(16) 令和6年度ジュニアリーダー研修会の宿泊キャンプ参加費用(案)について…	41
(17) 特例課程教室あすテップの今後の方針について……………	43
(18) 私立学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)との連携(案)について…	48
(19) NPO法人カタリバによるオンライン支援事業「room-K」について……………	49

(教 育 委 員 会)

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	「足立区教育振興ビジョン」の修正について												
所管部課名	教育指導部教育政策課												
内容	<p>足立区教育振興ビジョンについて、別添資料1のとおり修正したため報告する。</p> <p>1 教育振興ビジョン点検・評価委員からの提言を反映（主なもの）</p> <p>(1) 施策1-戦略2「健やかな身体の育成」への提言</p> <p>生活習慣やむし歯について、児童・生徒が適切な意思決定・行動選択を行う力を確認したり、それを育成するための取組をより一層充実させることが重要であり園児においても自ら取り組んでいるかどうかの視点やそのための保育者の取り組み方についても視点が必要</p> <p>【追加指標1】</p> <p>生活習慣で重要な【栄養・運動・睡眠】のうち、これまでになかった睡眠に関する成果指標を設定するもの</p> <table border="1" data-bbox="416 1122 1275 1370"> <thead> <tr> <th></th> <th>指標名</th> <th>R6目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成果</td> <td>「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした割合</td> <td>(小学6年生) 85% (中学3年生) 85%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【追加指標2】</p> <p>教育・保育施設で「歯みがき指導」を実施することが、自ら取り組む子どもの育成に繋がるため活動指標を設定するもの</p> <table border="1" data-bbox="424 1592 1283 1818"> <thead> <tr> <th></th> <th>指標名</th> <th>R6目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動</td> <td>「歯みがき指導」を実施する教育・保育施設の割合</td> <td>区立保育園 100% 私立保育園 100% 公設民営保育園 100% 幼稚園 70%</td> </tr> </tbody> </table>		指標名	R6目標値	成果	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした割合	(小学6年生) 85% (中学3年生) 85%		指標名	R6目標値	活動	「歯みがき指導」を実施する教育・保育施設の割合	区立保育園 100% 私立保育園 100% 公設民営保育園 100% 幼稚園 70%
	指標名	R6目標値											
成果	「全国学力・学習状況調査」で小学6年生及び中学3年生が「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に肯定的な回答をした割合	(小学6年生) 85% (中学3年生) 85%											
	指標名	R6目標値											
活動	「歯みがき指導」を実施する教育・保育施設の割合	区立保育園 100% 私立保育園 100% 公設民営保育園 100% 幼稚園 70%											

(2) 施策3-戦略4「いじめの早期発見・早期対応」への提言
いじめの早期発見・早期対応を戦略としているが、いじめの解消の有無に焦点を当てたものとなっているため、早期発見・対応ができていないのか、具体的な指標を加えるのはどうか。

【追加指標】

いじめの早期発見・早期対応に関する活動指標を設定するもの

	指標名	R6目標値
活動	いじめ相談受付後、5日以内に対応した割合	90%

2 今後の方針

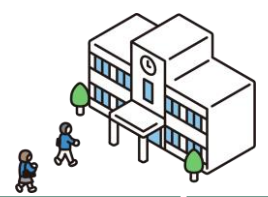
今回修正したビジョンは令和6年度修正版として区ホームページで公表する。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	学校図書館利活用推進プランの策定について
所管部課名	教育指導部教育政策課
内容	<p>学校図書館利活用推進プランを策定したため報告する。</p> <p>1 プラン作成の目的 学校と教育委員会が一体となって学校図書館の利活用を推進していくため、目的や指標、注力すべき取組を学校と共有する。</p> <p>2 プランの構成 【P5参照】</p> <p>(1) 目指す児童・生徒像 「読みたい！調べたい！自ら学びを深めるあだちの子」 学校図書館の利活用促進により、探究心を培い主体的に学ぶ子どもたちを育成していく。</p> <p>(2) 指標設定</p> <p>ア 成果指標 目指す児童・生徒像に対応する指標を設定 イ 活動指標 「読書センター」「学習センター」「情報センター」の学校図書館機能に対応する指標を設定</p> <p>(3) 学校図書館の機能とそれに対応した取組 上記(2)の3センター機能ごとに重点的な取組事項を整理</p> <p>3 プランの活用について</p> <p>(1) 各小・中学校は、プランに基づき学校図書館活用計画を作成し、PDCAによる進捗管理を行いながら学校図書館の利活用を推進する。</p> <p>(2) プランに基づき、学校図書館スーパーバイザーを中心とした学校図書館支援チームが各校を巡回訪問し、教員や司書等に助言・指導を行う。</p>

足立区学校図書館利活用推進プラン



目指す児童・生徒像

読みたい！調べたい！
自ら学びを深めるあだちの子

言語能力・情報活用能力の育成

主体的・対話的で深い学びの質的向上

成果指標

指標（最終成果）	R4（実績）	目標
1か月に読書をしない児童・生徒の割合（区学力調査）	小：28.2% 中：37.8%	低減 ↓
読書が好きな児童・生徒の割合（国学力調査：小6・中3）	小：68.2% 中：60.0%	向上 ↑
インターネットや図書等から必要な情報を集めて整理できたと思う児童・生徒の割合	小・中：64%	向上 ↑

学校図書館3つの役割

1 読書活動や読書指導の拠点 読書センター



読書に親しみやすくなる環境の整備

- 児童・生徒が利用しやすくするために、オリエンテーションを実施
- 図書館に足を運ばせるために、図書だよりやGoogle Classroom等による情報発信や、季節等に合わせた展示やイベントを実施
- 読書傾向・冊数を把握するために、読書ノート・記録を作成
- 読書習慣定着のきっかけとして、朝読書等、隙間時間に読書タイムを設定

学校司書（図書館支援員）の役割

オリエンテーションの実施支援／学校図書館に関する情報発信／イベント・展示の実施／図書委員会運営の補助／図書ボランティアとの連携

活動指標	現状値	目標
【小学校】 一人あたりの年間貸出冊数	45.2冊	向上↑
【中学校】 一人あたりの年間入館数	-	向上↑

2 自発的・主体的な学習活動の支援 学習センター



学校図書館を活用した学習の促進

- 図書館資料を活用した授業を実践
- 図書館運営に関する共通理解を図るために、管理職・図書館担当教員と学校司書（図書館支援員）による定期的な打合せを実施
- 資料を見つけやすくするために、配架を工夫
- レファレンス等により、児童・生徒や教員の目的に応じた必要な資料を迅速に提供

学校司書（図書館支援員）の役割

配架の整備／レファレンス



活動指標	現状値	目標
図書や資料を使って調べ学習等の授業を実施した教員の割合	-	向上↑
調べる学習コンクールの参加割合	-	向上↑

3 情報の収集・選択・活用能力を育成 情報センター



情報が活用しやすい蔵書構成

- 最新の情報を揃えられるように、適切な選書および定期的な廃棄を行う
- 正確な蔵書を把握するために、定期的に蔵書点検を実施
- 情報センターとしての機能向上をさせるように、蔵書構成割合の適正化を図る
- 幅広いレファレンスに応えられるように、蔵書の充実を図る
- 多種多様な資料を提供するために、公共図書館の配送サービス等を活用

学校司書（図書館支援員）の役割

選書・廃棄／蔵書点検の補助／配送サービスの活用

活動指標	現状値	目標
調べ学習用（0～8類）の蔵書割合の全校平均値 ※標準は小：75%、中：77%	小：46.3% 中：57.4%	向上↑

学校図書館活用計画・評価シートを作成し、校内で共有したうえで、PDCAサイクルに基づく図書館運営を実施

教育委員会の支援

【小学校】図書館支援員を年間90日（週2日）から年間180日（週4日）配置に拡充（R7完了）／月1回の業務報告会で派遣事業者と各校の状況を確認

【中学校】学校司書を年205日（週5日）配置／好事例の共有等により司書の専門性向上を図るための地区別連絡会を実施、Google Classroomでの疑問点等の解決

【小・中学校】学校図書館担当教員向け及び学校司書向けの研修を各々実施／学校図書館スーパーバイザーによる個別巡回指導／学校図書館活用計画・評価シートの分析およびそれに対する助言／学校図書館活用に関する情報発信／蔵書の充実を図るための予算配付



文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	学校と保護者の連絡ツールに関する保護者アンケートの結果について
所管部課名	教育指導部学校ICT推進担当課
内容	<p>学校と保護者の連絡ツール「C4th Home&School」に関する保護者アンケートの結果について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 アンケート結果概要</p> <p>(1) 実施期間 令和5年11月24日～12月18日</p> <p>(2) アンケート対象 H&S 登録者全員 約4万7千人（児童生徒一人につき複数人登録可）</p> <p>(3) 回答数 4,741件（回答率 約10%）</p> <p>(4) アンケート結果</p> <p>ア <u>学校からのお知らせ</u> が電子配信されて <u>便利・やや便利</u> と思う割合 79.6%</p> <p>【主な改善要望】</p> <p>要望① 重要度の高いものが区別できるようにして欲しい。 対応 重要な情報については「重要フラグ」を立てている。</p> <p>要望② フォルダ作成やメール振り分けなどの機能が欲しい。 対応 「お気に入り機能」を紹介するとともに、事業者に対して機能追加を要望。</p> <p>要望③ PDFファイル名を分かりやすくして欲しい。 対応 PDFを分かりやすいファイル名でダウンロードできるように事業者改善を要望。</p> <p>イ <u>区からのお知らせ</u> が電子配信されて <u>便利・やや便利</u> と思う割合 72.1%</p> <p>【主な改善要望】</p> <p>要望① 学校からのお知らせか区からのお知らせか分かりにくい。 対応 お知らせの件名で見分けられるような工夫を図るとともに発信者別にお知らせを見る方法を紹介。</p> <p>要望② つながりにくい場合がある。 対応 複数の配信が重ならないようにするなど、運用上の工夫を図るとともに、事業者サーバの増強などの対応を要望。</p> <p>ウ <u>欠席連絡</u> が連絡ツールからできて <u>便利・やや便利</u> と思う割合 91.5%</p>

【主な改善要望】

要望① 主アカウント以外も欠席連絡ができるようにしてほしい。

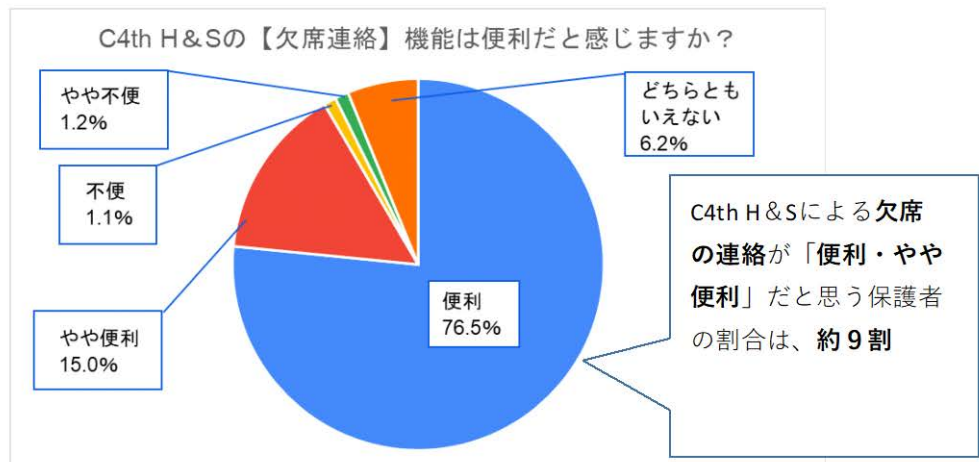
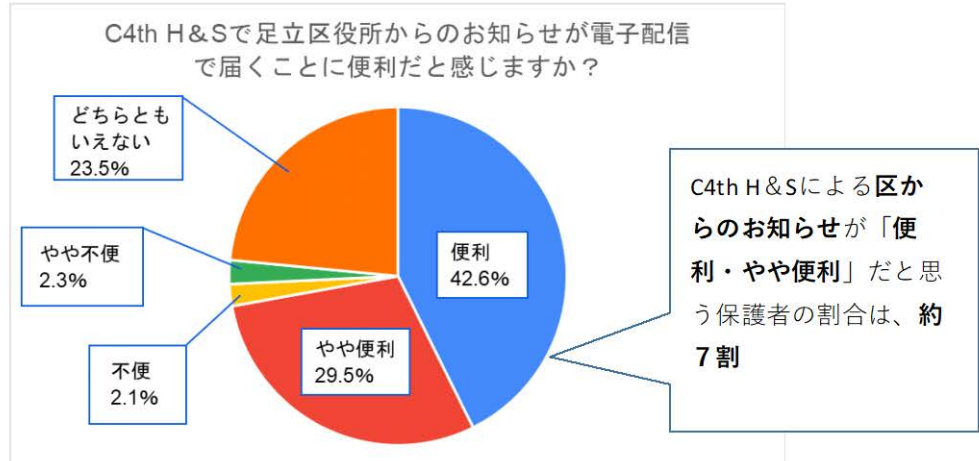
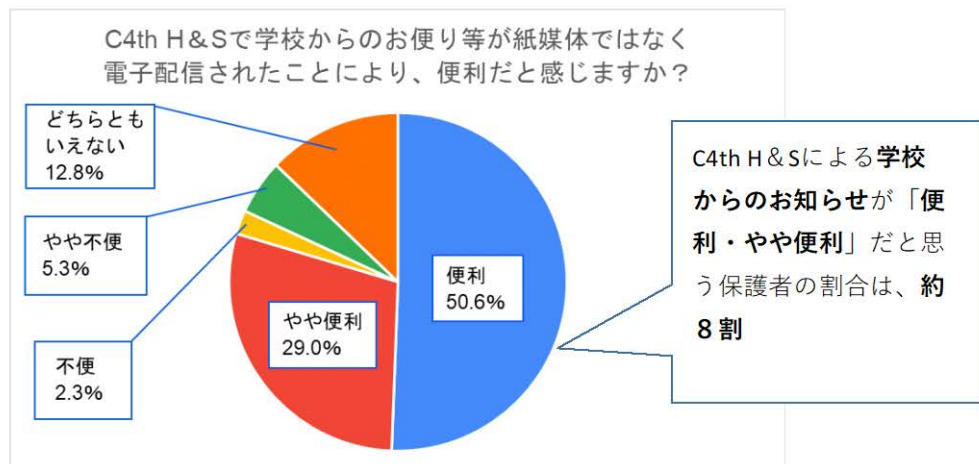
対応 副アカウントからも欠席連絡は可能なため、手順を紹介。

(5) 今後の対応

本アンケート結果について、回答を付して C4th Home&School にて保護者あてに送信するとともに、学校とも情報共有し、運用上の改善を図る。

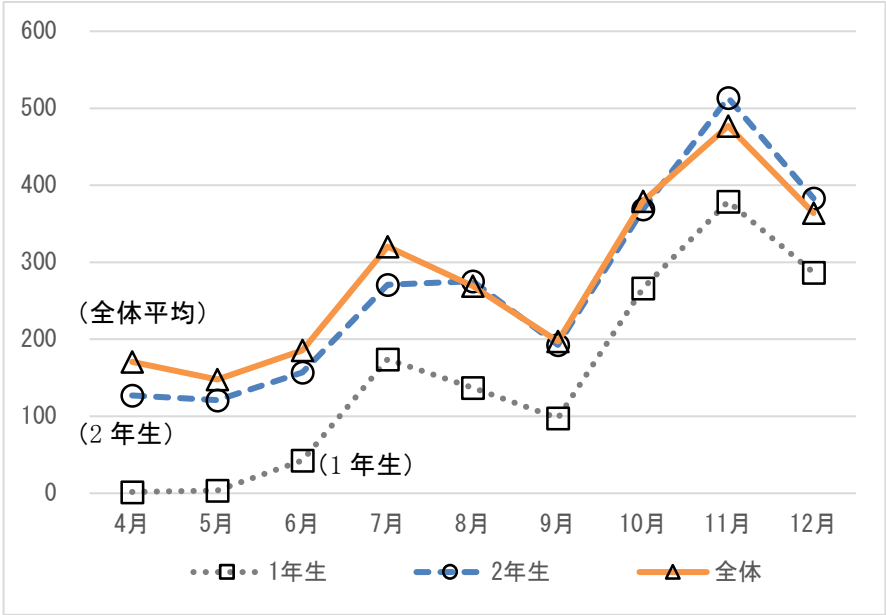
【参考】

C4th Home&School に関する保護者アンケート集計結果



文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	A Iドリル小学校低学年での試行利用状況について																																								
所管部課名	教育指導部学力定着推進課																																								
内容	<p>今年度「試行利用」と位置付けている小学校低学年でのA Iドリルの利用状況について、以下のとおり報告する。</p> <p>また、<u>次年度以降は小学1・2年生を含めた全児童・生徒が活用できるように本格的に導入する。</u></p> <p>1 利用状況</p> <p>(1) 月間平均解答数の推移（単位：問）</p>  <table border="1"> <caption>月間平均解答数の推移 (単位：問)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>1年生</th> <th>2年生</th> <th>全体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>0</td> <td>130</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>0</td> <td>120</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>40</td> <td>160</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>170</td> <td>270</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>140</td> <td>270</td> <td>270</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>100</td> <td>190</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>260</td> <td>370</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>380</td> <td>510</td> <td>470</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>280</td> <td>380</td> <td>370</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 考察</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学1年生の前期は、生活指導に重点を置くため、タブレット自体の活用がされない傾向にあるが、<u>6月以降、徐々に活用され始めている。</u> ② 10月、11月に強化月間を実施しており、教員の働きかけによって、例月と比べ、積極的な活用が見られた。特に<u>2年生においては11月以降、全体平均を上回る活用状況となっている。</u> ③ 漢字の書きにおいては「<u>とめ・はね・はらい</u>」を重視する教員も多く、主に紙の教材を活用しているケースがある。 	月	1年生	2年生	全体	4月	0	130	170	5月	0	120	150	6月	40	160	190	7月	170	270	320	8月	140	270	270	9月	100	190	190	10月	260	370	380	11月	380	510	470	12月	280	380	370
月	1年生	2年生	全体																																						
4月	0	130	170																																						
5月	0	120	150																																						
6月	40	160	190																																						
7月	170	270	320																																						
8月	140	270	270																																						
9月	100	190	190																																						
10月	260	370	380																																						
11月	380	510	470																																						
12月	280	380	370																																						

2 現場の声

- ① 低学年においても、概ね問題なくICT教材の活用ができており、意欲的に取り組む様子が見られた。
- ② 学習が早く終わった児童に対して、紙で別途、教材を準備する必要がなくなり、隙間時間を有効的に活用することができている。
- ③ 算数だけでなく、国語の問題についても問題数が充実してきており、繰り返し学習が必要な言語事項について、子どもたちが効率的に学習することができている。

【実際の学習画面】

つぎの文から、「しゅ語」(「何が(は)」)にあたるところを、あとからえらびましょう。

ぼくのペットは、かわいい犬です。

説明

ヒント

分からない時は「説明」をクリック！

【説明画面】

The explanation screen displays a list of words and their corresponding parts of speech (shu-go) in a vertical column. The words are: 「お昼の ごはんは、おいしいカレーだ。」 (お昼の、ごはんは、おいしい、カレーだ。), 「山の 上の 空気は、とてもきれいだ。」 (山の、上の、空気は、とても、きれいだ。), 「白い 車が、目の前に 止まる。」 (白い、車が、目の前に、止まる。), and 「文の ほね組みを おぼえよう。」 (文の、ほね組みを、おぼえよう。). Each word is enclosed in a box, and the part of speech is written next to it. A speech bubble from a character on the left explains that the words in red are the 'shu-go' to be selected. A speech bubble from a character on the right explains that the words in blue are the parts of speech to be selected. The parts of speech are: お昼の (おひるの)、ごはんは (ごはんは)、おいしい (おいしい)、カレーだ (カレーだ)、山の (やまの)、上の (うわの)、空気は (くわいは)、とても (とても)、きれいだ (きれいだ)、白い (しろい)、車が (くるまが)、目の前に (めんのまへに)、止まる (とまる)、文の (ぶん)、ほね組み (ほね組み)、を (を)、おぼえよう (おぼえよう).

※ 上記のとおり、説明・ヒントを確認することができ、自分自身で学習が進めやすい。

3 今後の方針

引き続き、活用事例の収集を行い、好事例については、研修等を通じて、横展開をしていく。

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和6年3月15日

件 名	英語教育グランドデザインの策定について
所管部課名	教育指導部学力定着推進課
内 容	<p>小・中学校における英語教育をトータルで組み立てる「グランドデザイン」（P11参照）を策定したので、以下のとおり報告する。</p> <p>1 目的</p> <p>中学校3年生の英語力を最終目標として指標化した上で、小・中学校段階での学習到達目標を示し、授業改善の指針とすることで、子どもたちが「使える英語力」を身に付けられる授業への転換を図る。</p> <p>2 構成</p> <p>(1) タイトル</p> <div data-bbox="459 891 1390 972" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>「使える英語力」育成グランドデザイン</p> </div> <p>知識の習得にとどまらず、実社会で英語を活用できることを目標とするため、「使える英語力」をキーワードとした。</p> <p>(2) 目指す児童・生徒像</p> <div data-bbox="459 1133 1390 1214" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><u>間違いを恐れずに、自分の考えを英語で表現できるあだちの子</u></p> </div> <p>① 正確さを求めるあまり英語を積極的に話すことができない状況を打破するため、あえて「間違いを恐れずに」とした。</p> <p>② 英語は「やり取り・双方向」が基本だが、まずは発信できることを重視し、「表現できる」とした。</p> <p>(3) 指標</p> <p>ア 活動指標 全国学力・学習状況調査の「言語活動の状況」から設定</p> <p>イ 成果指標</p> <p>(ア) 中学生の英語力（中3） ※ []内は目標値</p> <p>① C E F R A 1相当以上割合 [60%以上]</p> <p>② 区学力調査 通過率 [60%以上]</p> <p>③ 全国学力調査 正答率 [50%以上]</p> <p>(イ) 英語に対する意識「英語が好き」（小6・中3）[60%以上]</p> <p>(4) C A N－D Oリスト形式による学習到達目標</p> <p>学習指導要領や使用教科書を踏まえ、小学校段階から中学卒業に向けて、4技能（聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり・発表）・書くこと）ごとに到達目標と数値を設定した。</p>

足立区「使える英語力」育成グランドデザイン

1 目指す児童・生徒像 **間違いを恐れずに、自分の考えを英語で表現できるあだちの子**

2 児童・生徒の英語力の目標 ※[]は、R5実績値

活動指標		中学3年生	成果指標		小学6年生	中学3年生
全国学力・学習状況調査 意識調査 言語活動	1, 2年生の時に受けた授業で、原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動をしている。	75%以上 [区]72.3 [都]67.7 [国]63.8	CEFR	A1レベル相当	-	60%以上 [区]49.8 [都]59.5 [国]49.2
	1, 2年生の時に受けた授業で、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動をしている。	85%以上 [区]82.9 [都]81.6 [国]79.3	学力調査	区	通過率	-
		平均正答率			-	50%以上 [区]47.1 [都]52.0 [国]45.6
			国	意識調査「英語が好き」	70%以上 [区]65.2 [都]65.8 [国]69.3	60%以上 [区]51.5 [都]53.9 [国]51.9

※[全]は、区調査を委託している事業者が取り扱っている全自治体分の平均値

3 英語を使ってできること (CAN-DOリスト形式による学習到達目標)

	小学4年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	都立入試等で求められる英語力の目安
CEFR	PreA1		PreA1(英検5級)	PreA1(英検4級)	A1(英検3級)	
聞くこと	① 簡単な文句や基本的な表現で、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、おおよその内容を分かるようにする。 ② アルファベットの文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるか分かるようにする。	身近で簡単な事柄について、ゆっくりはっきりと話される英語を聞いて、おおよその内容や具体的な情報を聞き取ることができる。	日常的话题について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。(80語程度)	日常的话题や社会的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。(100語程度)	社会的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、必要な情報、概要や要点を聞き取ることができる。(120語程度)	自然な口調で話される100語程度の会話文や120語程度のスピーチを聞いて、その具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができる。
読むこと		① アルファベットの大文字と小文字を識別したり、文字の読み方を発音したりすることができる。 ② 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な文句や基本的な表現で書かれた視覚的情報が添えられた英語を読み、大まかな内容や具体的な情報を捉えることができる。	日常的话题について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。(100語程度)	日常的话题や社会的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。(150語程度)	社会的な話題について書かれた英文を読み、必要な情報、概要や要点を捉えることができる。(300~700語程度)	まとまりのある700語程度の対話文や物語文を読み、概要や要点、必要な情報を捉えることができる。
話すこと	やり取り 自分の好みや欲しいものなどについて、慣れ親しんだ文句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うようにする。	できることやできないこと、学校生活などについて簡単な文句や基本的な表現を用いて質問したり答えたりして会話を続け、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	① 関心のある事柄について、簡単な文句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 ② 好きな有名人やテレビ番組などについて、質問したり答えたりして会話を続け、自分の考えや気持ちなどを理由とともに伝え合うことができる。	② お勧めの場所や休日の計画などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに伝え合うことができる。	② 日本の文化や郷土、世界の現状などについて、質問したり答えたりして会話を続け、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに述べ合うことができる。	与えられた情報を基に質問に答えたり、自分の考えなどを述べたり、自分から質問したりすることができる。(10秒以内)
	発表 自分のことや校内の好きな場所などについて、イラストや写真などを見せながら、慣れ親しんだ文句や表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを発表するようにする。	夏休みの思い出や将来の夢などについて、簡単な文句や基本的な表現を用いて、伝える内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを発表することができる。	① 関心のある事柄について、簡単な文句や文を用いて即興で発表することができる。 ② 自分の友達や家族、学校生活などについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	② 自分が体験した出来事や関心のあるイベントなどについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	② 将来の目標や日本と世界の現状などについて、伝える内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに発表することができる。	イラストが示す内容や、聞いたり読んだりした内容を基に、自分の意見とその理由などについて話すことができる。(40秒以内)
書くこと	A B C	① アルファベットの大文字と小文字を正しく書き分けることができる。 ② 夏休みの思い出や行きたい国、将来の夢などについて、音声で十分に慣れ親しんだ文句や基本的な表現を用いて、例文を参考に自分の考えや気持ちをなどを書くことができる。	友達のスピーチを聞いたり、図や表が添えられたメールやブログなどを読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。(10文・50語程度)	プレゼンテーションを聞いたり、メールを読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。(15文・80語程度)	スピーチを聞いたり、掲示物や新聞記事を読んだりして、書く内容を整理した上で、事実や自分の考え、気持ちなどを理由とともに英文で書くことができる。(20文・100語程度)	① 聞き取った事柄について英語で書くことができる。 ② 読み取った内容について自分の考えなどを理由とともに3文の英語で書くことができる。

[使用教科書に合わせて場面や状況を設定]

4 目標達成に向けた主な取組

取組項目	対象	概要	小学校	中学校
授業力の向上	教員	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 言語活動を通して英語4技能をバランスよく育成 ✓ 目的や場面、状況等を明確にした言語活動の設定 ✓ 聞く・話す活動を踏まえた読む・書く活動の設定 ✓ 児童・生徒が英語を使える達成感のある授業実践 	研修「小中合同研修 / 小学校外国語活動・外国語科研修 / 中学校教科別研修」 教科指導専門員(小・中) 足立スタンダード(教科教育)推進委員会(小・中) / 小学校英語専科教員連絡会(小) 明海大学連携授業研究会(小・中) / 各種委員会による研究実践	
			英語チャレンジ講座(1年) 実用英語技能検定受験支援事業(3年) デジタル教材の提供「学習者用デジタル教科書・AIドリル」/ 都「Welcome to Tokyo」(小・中) / 「ESAT-J・英検対策問題」(中) 都「イングリッシュキャラバン・ウィーク」(小) 英語マスター講座(中) 明海大学連携「あけみ英語村」(小) 明海大学連携「留学生交流事業」(中) 英語教育スーパーバイザー・英語教育アドバイザー(小) / 外国語指導助手(ALT)(小・中) 国・都 英語施策の活用「国際交流コンシェルジュ」 / 「TOKYO GLOBAL GATEWAY(小・中)」	
学習機会の提供	児童・生徒	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童・生徒一人ひとりの個に応じた学習教材提供 ✓ 異文化理解の場面や自然な英語使用の場面を創出 ✓ 外部人材との交流を通して、使える英語力を実感 ✓ 学習意欲喚起・学習成果を実感する検定受験勧奨 		

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	足立区立中学校不登校未然防止事業の利用生徒の状況とモデル校の拡大（案）について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	<p>1 六月中学校（既存のモデル校）利用生徒の状況</p> <p>SSR（スモール・ステップ・ルーム）を利用している生徒を対象に実施したSSRでの過ごし方や、利用後に変化したと思うこと等についてのアンケートの結果と、6年度の事業実施予定について報告する。</p> <p>アンケートは令和5年12月に実施し、利用生徒16名のうち6名が回答した。</p> <p>(1) SSRの良いと思う点</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 自由に勉強して、分からないところはすぐ先生に確認できる。 イ 個室のように個人で落ち着いて学習できること。 ウ 少人数で過ごせること。 エ 朝から登校できる。 <p>(2) SSRで変えてほしい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 常時、静かに過ごせるようにしてほしい。 (現状、休み時間は話し声等が大きい生徒がいる) イ 意見箱が欲しい。 ウ 他の教室から見えないようにカーテンをつけて欲しい。 <p>(3) 現在の過ごし方</p> <ul style="list-style-type: none"> ア クロームブックを使って勉強している。 イ 進路学習をしたり、息抜きで絵を描いたりしている。 ウ 折り紙、掃除、卓球、ダンス、勉強、おしゃべり。 <p>(4) 今後やってみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 動画を見て学習したい。 イ 負担にならない程度に、先生や他の生徒と話したい。 <p>(5) SSRを利用するようになって変化したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 登校日数が増えた。 イ 学校にストレスを感じなくなった。 ウ 気持ちが落ち着いてきた。 エ 少しだけ頑張れるようになった。 オ 学校に行くことに対する恐怖感や生き難さが少し改善した。

2 令和6年度のモデル校について

(1) モデル校

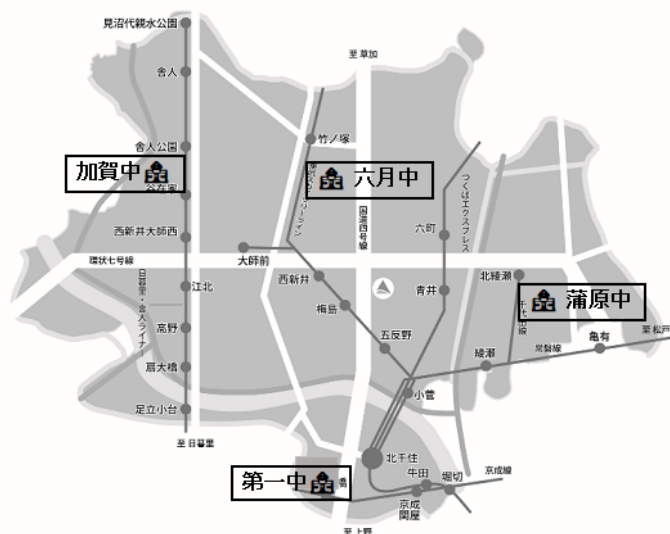
六月中学校（令和5年度から継続）
第一中学校、蒲原中学校、加賀中学校

(2) 選定方法

区立中学校に事業の目的等を周知し、実施希望校を募集。

(3) 選定基準

- ア 不登校生徒が多い等の課題があること。
- イ 校内にSSRに活用できる教室が存在すること。
- ウ モデル校が特定の地域に偏らないこと。



3 今後のスケジュール

新たなモデル校の環境整備に必要な経費は、令和6年度当初予算（案）に計上し、議決が得られた際には速やかに物品等を調達し、早期に事業を実施する。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	足立区立辰沼小学校におけるいじめ防止対策について
所管部課名	教育指導部教育指導課
内容	<p>足立区立辰沼小学校において実施しているいじめ防止対策及び今後の方針について報告する。</p> <p>1 辰沼小学校におけるいじめ防止の取組</p> <p>辰沼小学校では、平成24年10月から、児童の主体的ないじめ防止活動として「TKR（辰沼キッズレスキュー）」を発足し、現在に至っている。令和5年度は、400人程が所属（全校児童545名）している。</p> <p>(1) 目的と内容</p> <p>ア 目的 児童の自治能力を高めることで、いじめの未然防止に努め、いじめが起きにくい環境づくりを推進している。</p> <p>イ 内容 学校が楽しければいじめは起こらないという考えのもと、児童（代表委員会）が中心となり、全校児童が楽しめるイベントの計画やポスターの作成、いじめ防止パレード等を行っている。</p> <p>(2) 発足の経緯 当時の辰沼小学校長が、大津市のいじめ自殺事件について、児童会役員数名と意見交換を行ったことが契機となり、TKRが発足した。</p> <p>(3) 主な具体的取組</p> <p>ア 児童朝会での意識付け 児童朝会の最後に全校児童で合言葉を読み上げ、いじめ防止に関する意識を高める。</p> <p>イ 児童による防止パレード（パトロール）の実施 TKR所属委員による校庭でのパレード（週1回）を実施する。</p> <p>ウ 辰沼しぐさの奨励 友達からされてうれしいことを調査し、日常の生活の実践につなぐ。</p> <p>エ イベントの開催 「ドッジボール大会」「だるまさんが転んだ」「けん玉選手権」「縄跳び選手権」等、楽しむ機会を創出するためのイベントを定期的に開催する。</p> <p>オ TKR校内放送の実施 友達から言われて嬉しかった言葉を発表し合う。</p> <p>カ キャラクターを活用したキャンペーンの実施</p>

いじめ防止に関するキャラクター（タッピー&ハッピー）を活用し、いじめ反対キャンペーンを行う。

キ 思いやり報告箱の設置

友達から受けた思いやりの報告箱を設置し、友達のよさを認め合う。

2 今後の方針

- (1) 令和6年3月に開催された生活指導担当者連絡会（全区立小中学校担当者出席）において、辰沼小学校の実践例を紹介するとともに、他校の児童・生徒の主体的な取組を確認し、学校間で共有した。
- (2) 令和6年度から、区立小中学校で実施しているいじめ防止に関する取組等、健全育成に関する活動について生活指導担当者連絡会等で周知するとともに、児童会・生徒会による主体的な取組がより一層充実するよう、近隣小中学校間での話し合いの機会を創出する。

<参考>

足立区におけるいじめ防止のための基本的な考え方と取組

(1) 足立区の方針

いじめ防止及び早期発見、いじめを受けた児童・生徒に対する適切な支援、いじめを行った者等に対するいじめに関する相談体制の充実等、いじめ防止に関する対策を教育委員会と学校が連携しながら総合的に実施する。

(2) 足立区立学校の方針

いじめを絶対に許さず、いじめを受けている児童・生徒を守り抜く態度を明確に表明するとともに、いじめの未然防止や早期発見・早期対応等に取り組む。

(3) 重大事態への対処

いじめ防止法第28条第一項に規定された重大事態発生時に、教育委員会附属機関のいじめ等問題対策委員会を招集し、区長に報告する。また、重大事態への対処や再発防止のための措置を行う。

(4) 教育委員会の具体的な取組

ア 心の教育の充実を図る教育課程の推進

イ いじめ防止に関する教員向け研修会の実施

ウ スクールカウンセラーの定期派遣と心のケア

(※ こども支援センターげんき事業)

エ いじめ相談電話、ネット相談受付等の相談窓口の設置

オ 「いじめ一覧表」と「いじめ個票」による月1回の認知報告

カ 年3回の「いじめに関するアンケート」の実施

キ 学校訪問におけるいじめの実態把握

ク 自殺予防（SOSの出し方に関する教育等）に関する研修会の実施（※ 区衛生部こころとからだの健康づくり課と共催）

ケ 年2回のWEBQUの実施による親和的な学級づくり

文 教 委 員 会 報 告 資 料

令和6年3月15日

件 名	「令和5年度第2回学習者用デジタル教科書の効果検証調査」報告について																								
所管部課名	教育指導部教育指導課																								
内 容	<p>令和5年度の第2回学習者用デジタル教科書の効果検証調査の結果について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 調査の概要</p> <p>(1) 対象</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 学習者用デジタル教科書を導入している小学校5、6年生、中学校1～3年生</p> <p style="margin-left: 20px;">イ アを指導している教員</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ アの保護者</p> <p>(2) 調査教科</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 小学校</p> <p style="margin-left: 40px;">(ア) 外国語 (67校)</p> <p style="margin-left: 40px;">(イ) 算数 (35校)</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 中学校</p> <p style="margin-left: 40px;">(ア) 外国語 (35校)</p> <p style="margin-left: 40px;">(イ) 数学 (17校)</p> <p>(3) 有効回答数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">外国語</th> <th colspan="2">算数・数学</th> </tr> <tr> <th>回答数(人)</th> <th>回答率(%)</th> <th>回答数(人)</th> <th>回答率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児童・生徒</td> <td style="text-align: center;">18,044 (+3,118)</td> <td style="text-align: center;">73.1 (+12.6)</td> <td style="text-align: center;">9,963 (+1,793)</td> <td style="text-align: center;">75.1 (+13.5)</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td style="text-align: center;">385 (+12)</td> <td style="text-align: center;">87.5 (+3.7)</td> <td style="text-align: center;">180 (△68)</td> <td style="text-align: center;">54.5 (△20.7)</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td style="text-align: center;">3,053 (△1,992)</td> <td style="text-align: center;">12.4 (△9.4)</td> <td style="text-align: center;">1,653 (△1,607)</td> <td style="text-align: center;">12.5 (△12.1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">※ () 内は第1回目との比較</p> <p>(4) 期間</p> <p style="margin-left: 20px;">令和5年12月1日から同月25日までに実施</p> <p style="margin-left: 20px;">※ 第1回目は、令和5年7月6日から同月20日までに実施</p> <p>(5) 調査項目及び結果</p> <p style="margin-left: 20px;">P19～28のとおり</p>		外国語		算数・数学		回答数(人)	回答率(%)	回答数(人)	回答率(%)	児童・生徒	18,044 (+3,118)	73.1 (+12.6)	9,963 (+1,793)	75.1 (+13.5)	教員	385 (+12)	87.5 (+3.7)	180 (△68)	54.5 (△20.7)	保護者	3,053 (△1,992)	12.4 (△9.4)	1,653 (△1,607)	12.5 (△12.1)
	外国語		算数・数学																						
	回答数(人)	回答率(%)	回答数(人)	回答率(%)																					
児童・生徒	18,044 (+3,118)	73.1 (+12.6)	9,963 (+1,793)	75.1 (+13.5)																					
教員	385 (+12)	87.5 (+3.7)	180 (△68)	54.5 (△20.7)																					
保護者	3,053 (△1,992)	12.4 (△9.4)	1,653 (△1,607)	12.5 (△12.1)																					

2 効果のあった事項

第1回の効果検証調査の課題であった「学習者用デジタル教科書の特徴や活用方法を十分に理解できていない教員がいる」ことについて、改善が見られる。

- (1) 外国語の学習者用デジタル教科書の活用により、効果的な場面においての使用が定着し、学習内容の理解度につながった。

外国語の学習内容の理解度について（「そう思う」の回答）

	第1回目	第2回目	増減
小学校教員	39%	41%	+2ポイント
小学校保護者	30%	32%	+2ポイント
中学生	41%	43%	+2ポイント
中学校教員	30%	33%	+3ポイント

（P19 質問1参照）

- (2) 算数・数学において、一人1本導入されたペンが活用され、数直線や線分図等への書き込みが児童・生徒の自力解決につながった。

書き込み機能の効果について（肯定的な回答）

	第1回目	第2回目	増減
中学生（数学）	70%	73%	+3ポイント
小学校保護者（算数）	62%	68%	+6ポイント

（P26 質問8参照）

- (3) 外国語と算数・数学において、児童・生徒が紙の教科書と学習者用デジタル教科書を場面によって効果的に使い分けを始めている。

ア 教員の自由回答

（ア）外国語の音声、動画、算数・数学の図形等、デジタルコンテンツがある单元では、児童・生徒の自主的な活用が見られる。

（イ）デジタルコンテンツがない单元では、自主的に紙の教科書を活用している場面が見られる。

- (4) 学校が学習者用デジタル教科書の効果的な使用場面について授業公開等を行い、学校だより、学校ホームページ等で情報発信することで保護者への啓発が進んだ。

ア 教員の自由回答

（ア）学校公開で学習者用デジタル教科書を使った授業について、学年だよりに掲載し、保護者からは、児童・生徒が使いこなしている様子が見られるという意見があった。

（イ）生徒が回転体のシミュレーションを使って理解を深めることができていることを学年だよりで紹介した。

（ウ）授業だけでなく、日常的に児童が家庭学習で学習者用デジタル教科書を活用する場面を保護者が見ることで、啓発できている。

3 課題のあった事項

(1) 外国語において、中学生が音読活動に苦手意識を感じている。

ア 外国語の音声教材の効果（肯定的な回答）

	第1回目	第2回目	増減
中学校教員	72%	60%	△12ポイント

（P21 質問3参照）

(2) 算数・数学の家庭学習において、教員が学習者用デジタル教科書を活用した課題の設定に難しさを感じている。

ア 学習者用デジタル教科書を使用した算数・数学の課題の取組（肯定的な回答）

	第1回目	第2回目	増減
小学校教員	64%	58%	△6ポイント
小学校保護者	52%	56%	+4ポイント
中学校教員	53%	45%	△8ポイント

（P28 質問10参照）

(3) 課題に対する対応策

学習のねらいに応じて個別に学習者用デジタル教科書を活用する実践事例を改めて周知するとともに、家庭学習で効果的に活用できる場面において課題を設定するよう、継続して学校に指導する。

4 令和6年度以降の国の方針

(1) 外国語については、小学校第5学年から中学校第3学年の全員に提供する（国が全額負担）。

(2) その他の教科については段階的に提供する（算数・数学については、国が全体の半数から最大6割の学校への提供を予定）。

(3) 新たに国の方針が示されるまではデジタルと紙の教科書を併用する。

5 今後の区の方針

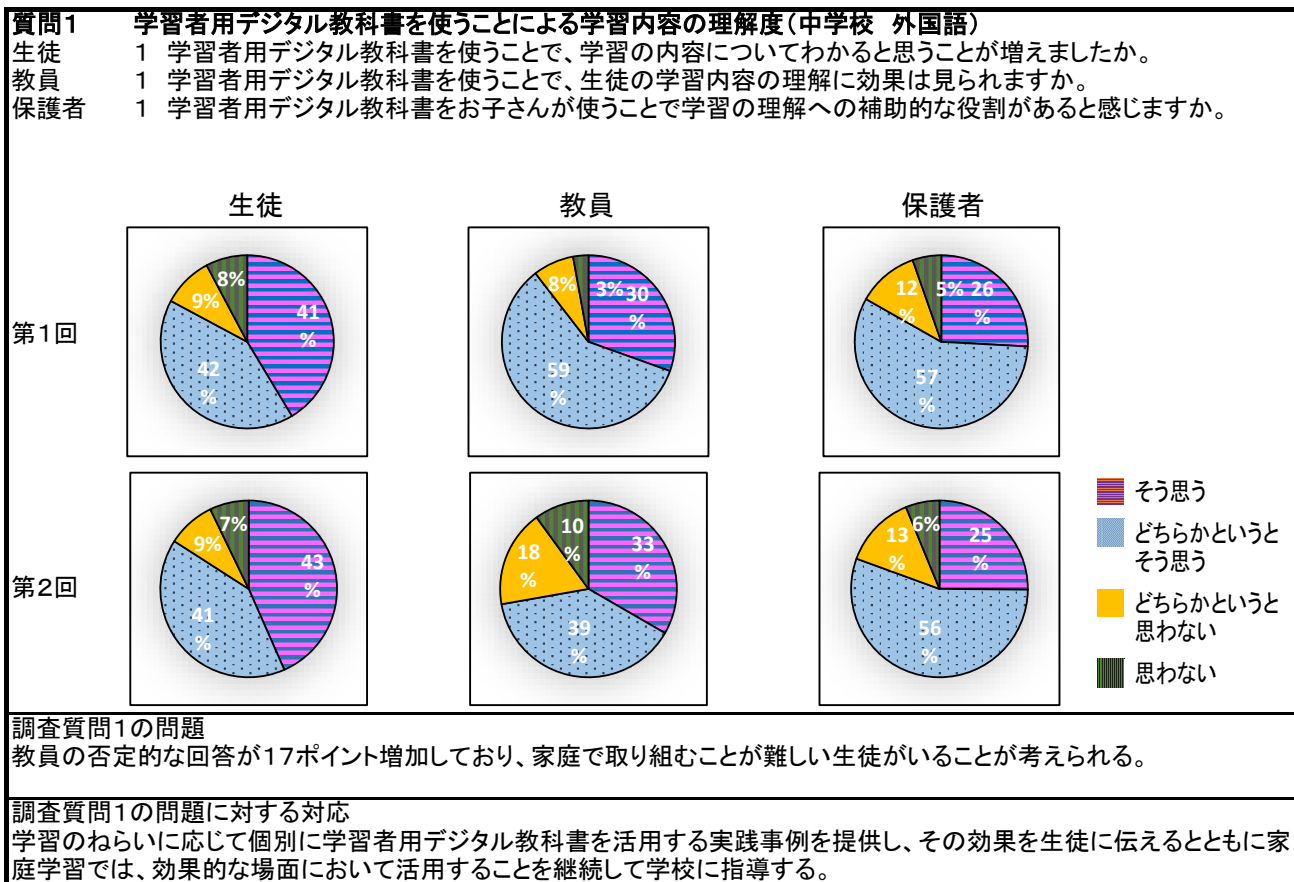
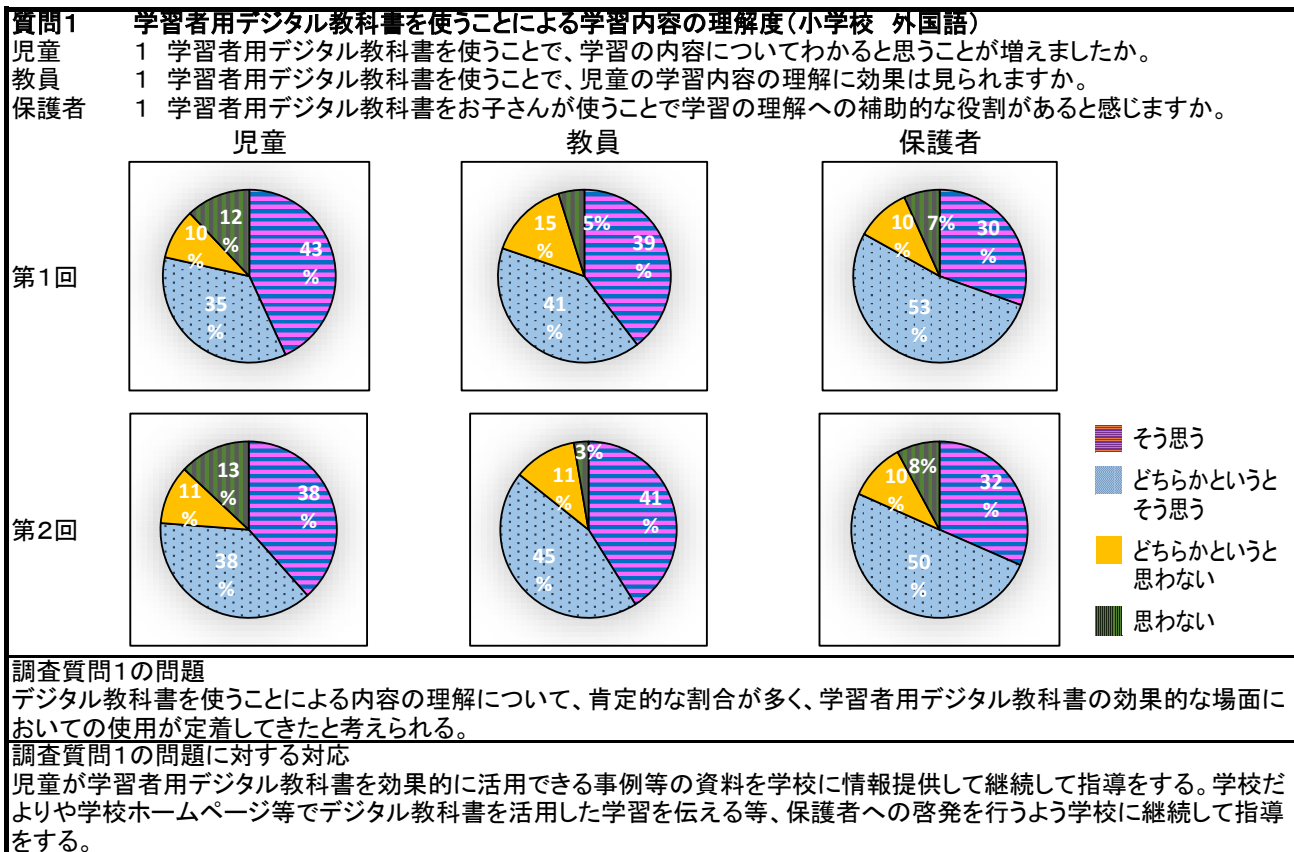
(1) 外国語については全ての小・中学校でデジタル教科書を使用する。

算数・数学については、利用を希望し、かつ国から無償提供される小・中学校のみでデジタル教科書を使用する。

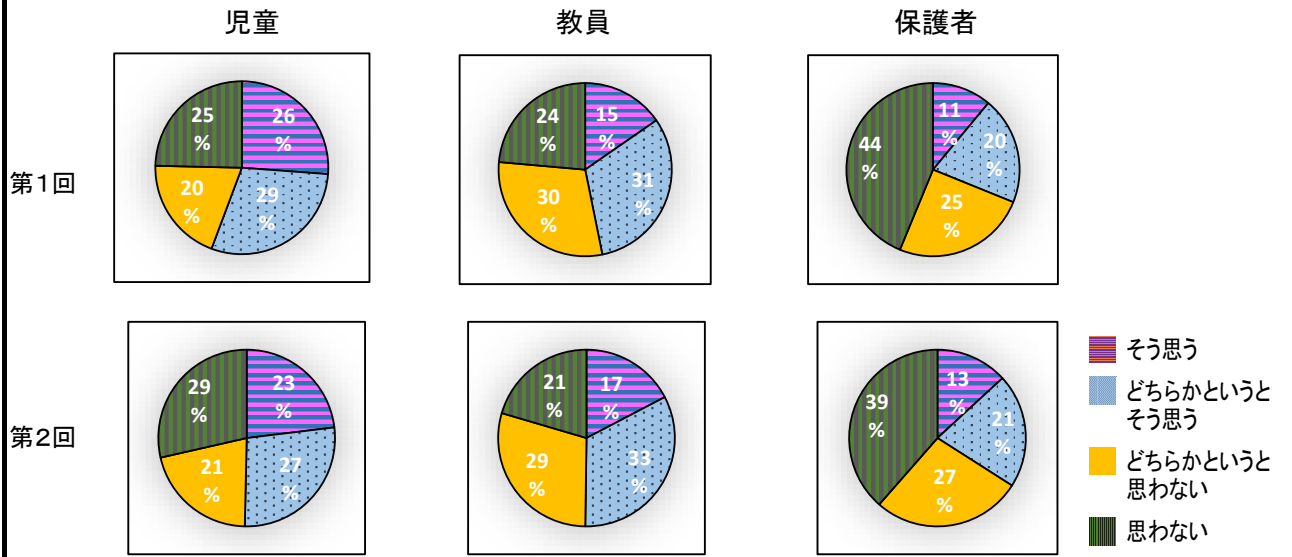
(2) 今回の調査をもとに、児童・生徒が学習者用デジタル教科書を効果的に活用し、学習効果を高めていけるようデジタル教科書の使用の実践事例や使用方法について各校に資料提供等を行い、足立スタンダードと関連付けた指導を継続する。

(3) 学習者用デジタル教科書について、次年度は大幅な変更がされないことから、区独自の効果検証は本調査をもって終了とする。なお、今後、機能面等、大きくバージョンアップされる場合には、学習者用デジタル教科書の効果検証調査について検討する。

令和5年度学習者用デジタル教科書の効果検証調査結果



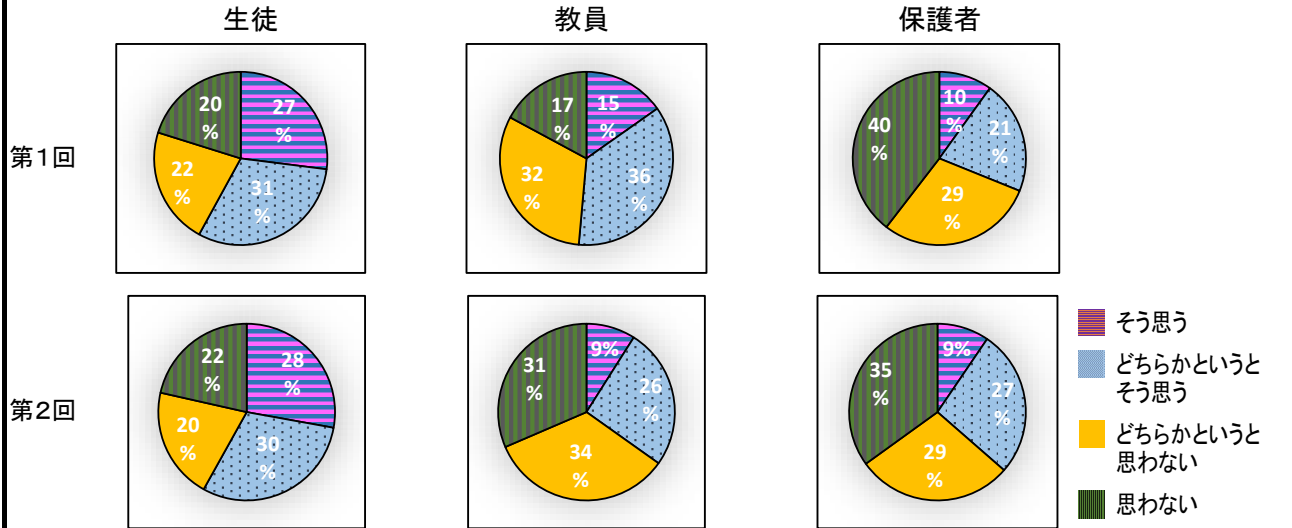
質問2 学習者用デジタル教科書の主体的な使用(小学校 外国語)
 児童 2 わからないことを調べるときや、学習内容をもう一度確かめるために学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 教員 2 児童は、自主的に学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 保護者 2 お子さんは、ご自宅で学習者用デジタル教科書を使って学習をしている、もしくは、学校で使っていることを話しますか。



調査質問2の問題
 教員、保護者の肯定的な回答がそれぞれ4ポイント、3ポイント増加しているが、児童の肯定的な回答は5ポイント減少している。学校や家庭での学習者用デジタル教科書の使用が増えているが、児童が紙の教科書と学習者用デジタル教科書を場面によって使い分けし始めていることが考えられる。

調査質問2の問題に対する対応
 児童が学習者用デジタル教科書の使い方がわかる資料を提供し、学習等でわからないときは学習者用デジタル教科書の活用を促し、場面に応じて紙の教科書と併用していくことを継続して学校に指導する。

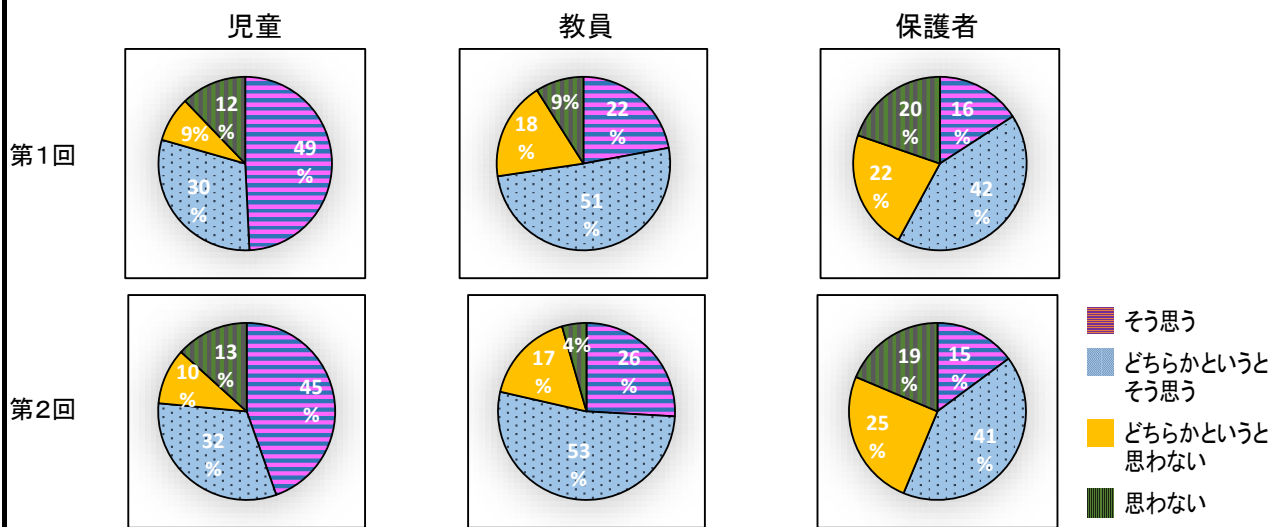
質問2 学習者用デジタル教科書の主体的な使用(中学校 外国語)
 生徒 2 わからないことを調べるときや、学習内容をもう一度確かめるために学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 教員 2 生徒は、自主的に学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 保護者 2 お子さんは、ご自宅で学習者用デジタル教科書を使って学習をしている、もしくは、学校で使っていることを話しますか。



調査質問2の問題
 保護者の肯定的な回答が5ポイント増加しているが、教員の肯定的な回答は16ポイント減少している。学校や家庭での学習者用デジタル教科書の使用が増えているが、生徒が紙の教科書と学習者用デジタル教科書を場面によって使い分けし始めていることが考えられる。

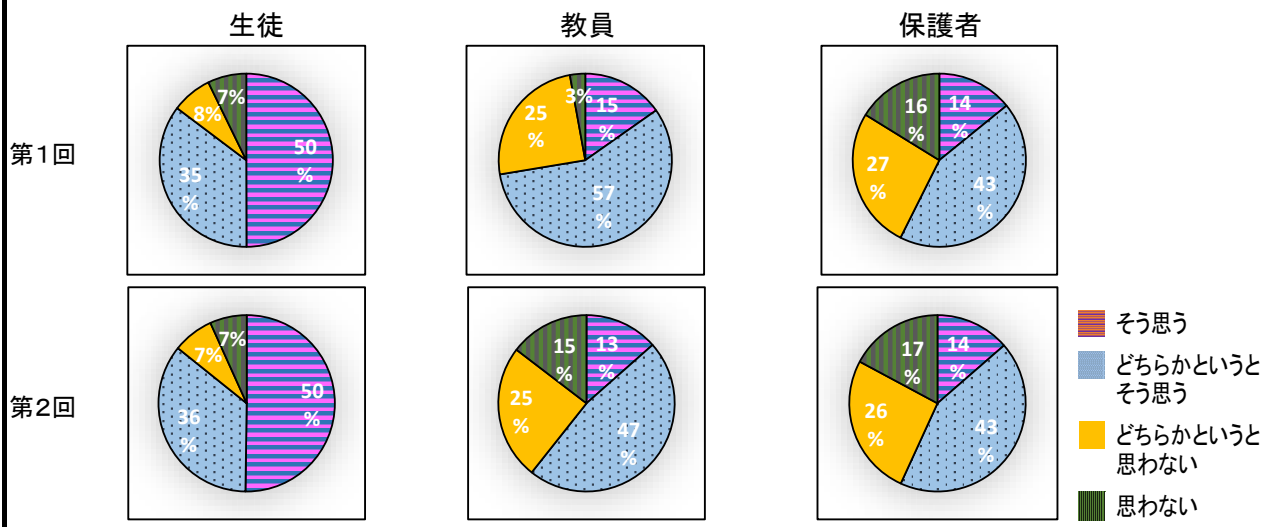
調査質問2の問題に対する対応
 生徒が学習者用デジタル教科書の使い方がわかる資料を提供し、学習等でわからないときは学習者用デジタル教科書の活用を促し、場面に応じて紙の教科書と併用していくことを継続して学校に指導する。

質問3 学習者用デジタル教科書の音声教材の効果(小学校 外国語)
 児童 3 学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで、英語の読み方の発音がわかりやすくなったと感じていますか。
 教員 3 学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで、児童は音読活動で苦手意識が減ってきていると感じますか。
 保護者 3 学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで、お父さんは英語の音読活動に積極的に取り組めるようになっていきますか。



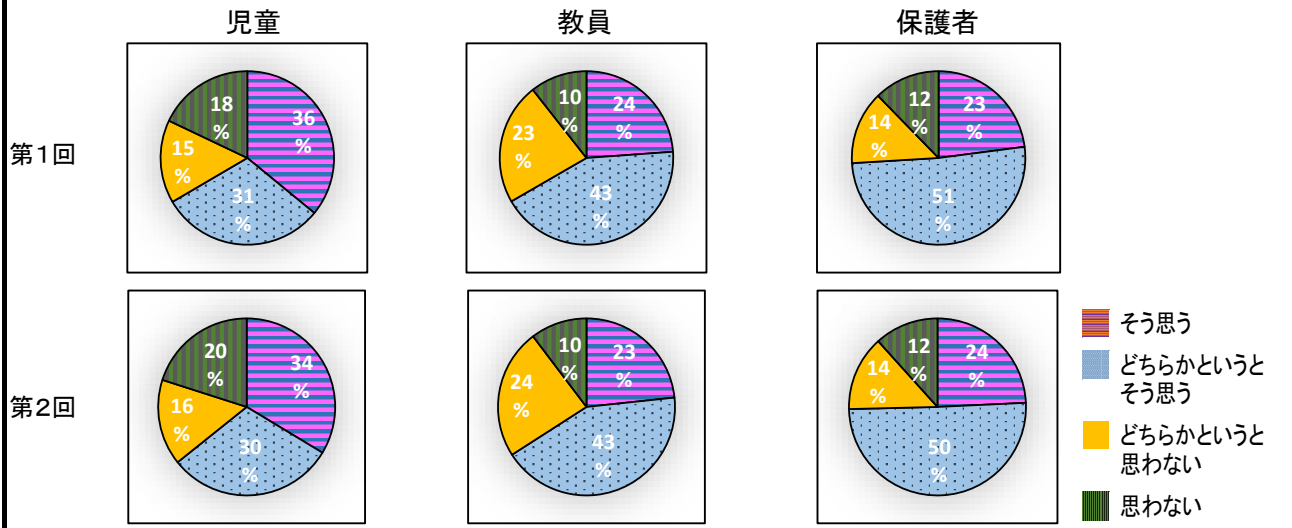
調査質問3の問題
 教員の肯定的な回答が6ポイント増加しており、学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで音読活動の苦手意識が減ってきていると考えられる。
 調査質問3の問題に対する対応
 児童が今後も自主的に音読活動ができるよう、学習者用デジタル教科書の音声教材の活用を促していくことを学校に継続して指導をする。

質問3 学習者用デジタル教科書の音声教材の効果(中学校 外国語)
 生徒 3 学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで、英語の読み方の発音がわかりやすくなったと感じていますか。
 教員 3 学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで、生徒は音読活動で苦手意識が減ってきていると感じますか。
 保護者 3 学習者用デジタル教科書の音声を聞くことで、お父さんは英語の音読活動に積極的に取り組めるようになっていきますか。



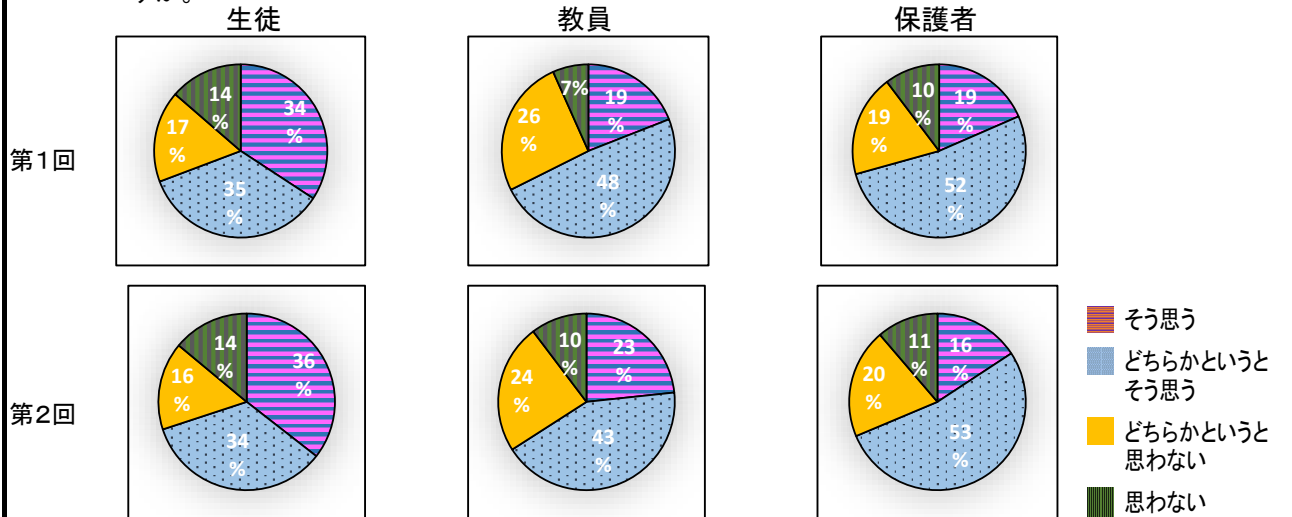
調査質問3の問題
 生徒の肯定的な回答は9割近いが、教員の肯定的な回答が12ポイント減少しており、音読が苦手な生徒がいるためと考えられる。
 調査質問3の問題に対する対応
 学習のねらいに応じて個別に学習者用デジタル教科書を活用する実践事例を提供し、その効果を生徒に伝えるとともに家庭学習では、効果的な場面において活用することを継続して学校に指導する。

質問4 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションの使用(小学校 外国語)
 児童 4 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションなどを使っていますか。
 教員 4 動画やアニメーションなどのデジタル教材を活用して、児童が学習者用デジタル教科書を使っていると感じていますか。
 保護者 4 動画やアニメーションなどの学習者用デジタル教材は、お子さんの学習の理解に役立っていると感じていますか。



調査質問4の問題
 肯定的な回答が6割から7割を維持しており、動画やアニメーションなどのデジタル教材は理解につながっていると考えられるが、デジタル教材を見るだけにとどまっている可能性がある。
調査質問4の問題に対する対応
 児童が学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションを効果的に活用できる事例等の資料を学校に情報提供して継続して指導をする。

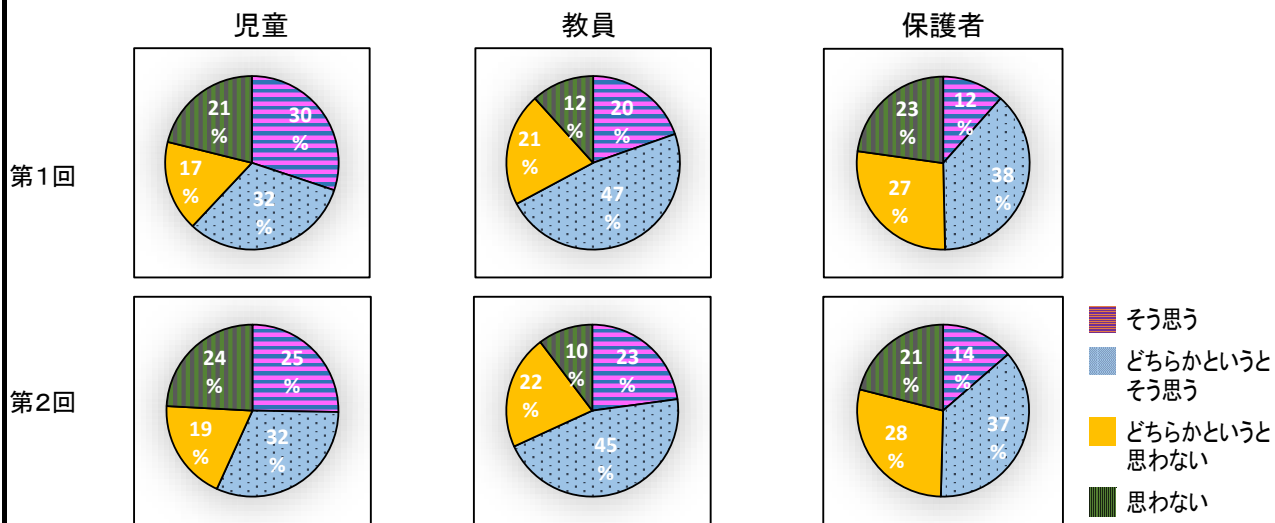
質問4 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションの使用(中学校 外国語)
 生徒 4 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションなどを使っていますか。
 教員 4 動画やアニメーションなどのデジタル教材を活用して、生徒が学習者用デジタル教科書を使っていると感じていますか。
 保護者 4 動画やアニメーションなどの学習者用デジタル教材は、お子さんの学習の理解に役立っていると感じていますか。



調査質問4の問題
 肯定的な回答が6割から7割を維持しており、動画やアニメーションなどのデジタル教材は理解につながっていると考えられるが、デジタル教材を見るだけにとどまっている可能性がある。
調査質問4の問題に対する対応
 生徒が学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションを効果的に活用できる事例等の資料を学校に情報提供して継続して指導をする。

質問5 学習者用デジタル教科書を使用した課題の取組(小学校 外国語)

児童 5 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った音読の課題に取り組むことで、英語に興味をもって学習できるようになってきたと感じていますか。
 教員 5 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った音読の課題を設定することで、児童が意欲的に取り組み、学習効果があると感じますか。
 保護者 5 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った音読の課題に取り組むことで、お子さんは英語に関心をもって学習をするようになってきたと感じていますか。

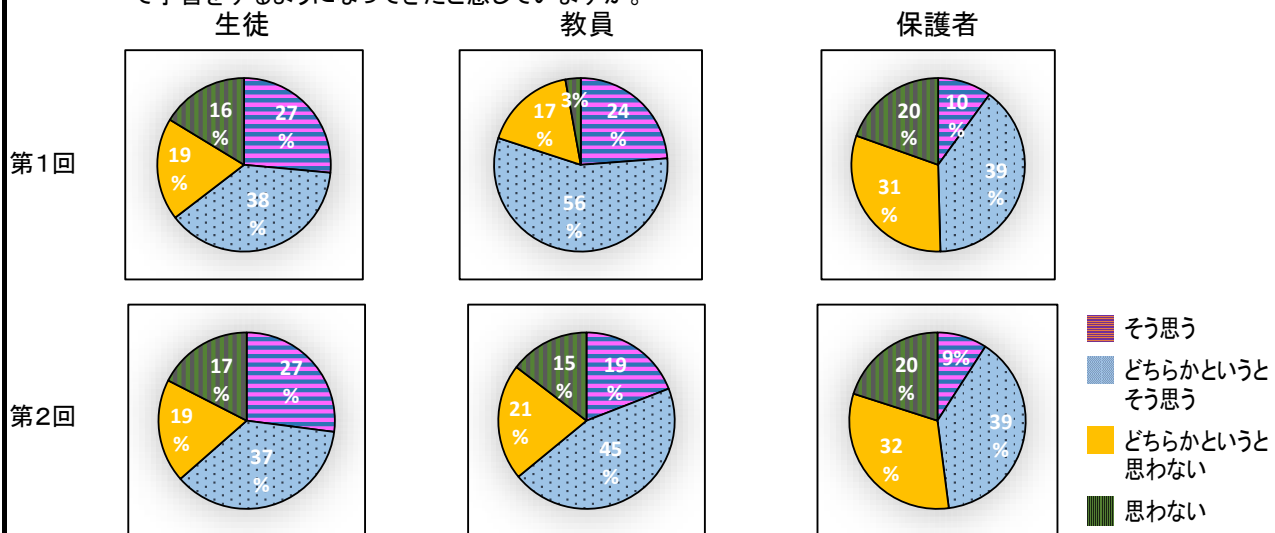


調査質問5の問題
 肯定的な回答が児童では6割弱、教員では7割弱あるにもかかわらず、保護者の否定的な回答が5割程度あり、音読等の家庭学習が行われていない場合があると考えられる。

調査質問5の問題に対する対応
 学習のねらいに応じて個別に学習者用デジタル教科書の音声を活用する実践事例を提供し、家庭学習では、学習者用デジタル教科書の音声等を活用した音読の課題を設定するよう継続して学校に指導する。

質問5 学習者用デジタル教科書を使用した課題の取組(中学校 外国語)

生徒 5 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った音読の課題に取り組むことで、英語に興味をもって学習できるようになってきたと感じていますか。
 教員 5 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った音読の課題を設定することで、生徒が意欲的に取り組み、学習効果があると感じますか。
 保護者 5 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った音読の課題に取り組むことで、お子さんは英語に関心をもって学習をするようになってきたと感じていますか。

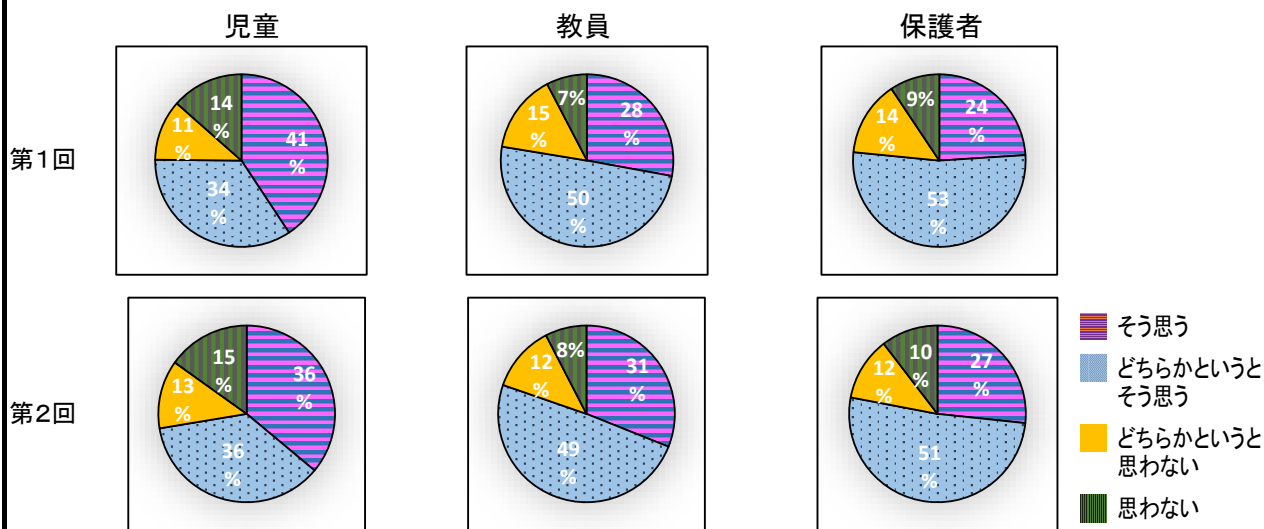


調査質問5の問題
 教員の肯定的な回答が16ポイント減少しており、家庭学習で音読に取り組むことが難しい生徒がいると考えられる。

調査質問5の問題に対する対応
 学習のねらいに応じて個別に学習者用デジタル教科書を活用する実践事例を提供し、その効果を生徒に伝えるとともに家庭学習では、学習者用デジタル教科書のコンテンツを活用した音読の課題を設定するよう継続して学校に指導する。

質問6 学習者用デジタル教科書を使うことによる学習内容の理解度(小学校 算数)

- 児童 6 学習者用デジタル教科書を使うことで、学習の内容についてわかると思うことが増えましたか。
- 教員 6 学習者用デジタル教科書を使うことで、児童の学習内容の理解に効果は見られますか。
- 保護者 6 学習者用デジタル教科書をお子さんが使うことで学習の理解への補助的な役割があると感じますか。



調査質問6の問題

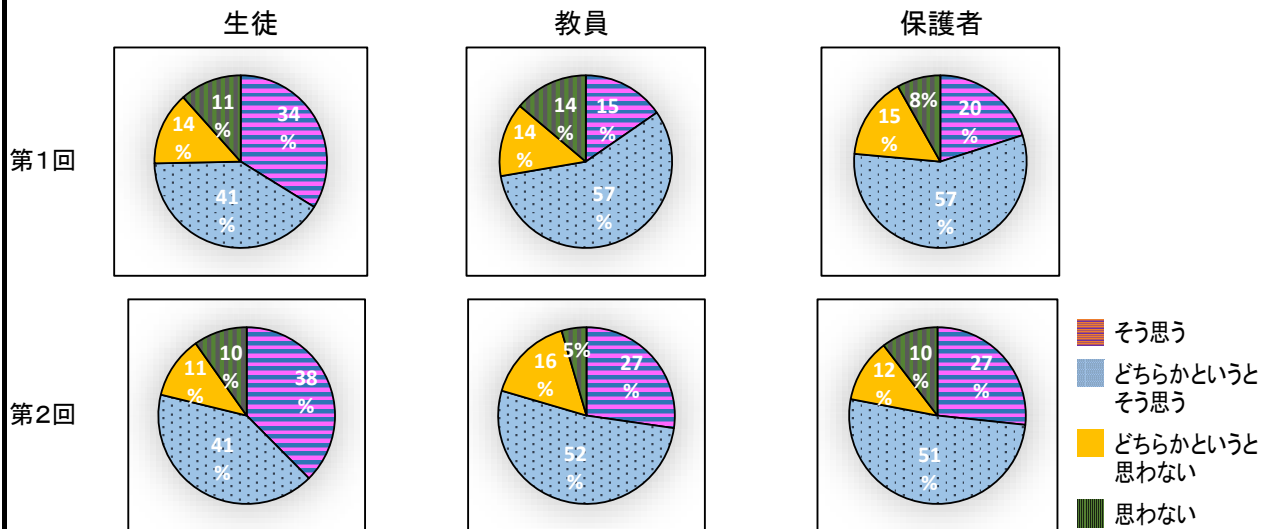
教員と保護者の「そう思う」の回答がそれぞれ3ポイント増加しており、算数において、学習者用デジタル教科書を効果的な場面に絞って活用ができてきていると考えられる。

調査質問6の問題に対する対応

教員が学習者用デジタル教科書の使用について、学習場面を選んで効果的に活用できるよう引き続き使用方針について周知し、学校に指導をする。

質問6 学習者用デジタル教科書を使うことによる学習内容の理解度(中学校 数学)

- 生徒 6 学習者用デジタル教科書を使うことで、学習の内容についてわかると思うことが増えましたか。
- 教員 6 学習者用デジタル教科書を使うことで、生徒の学習内容の理解に効果は見られますか。
- 保護者 6 学習者用デジタル教科書をお子さんが使うことで学習の理解への補助的な役割があると感じますか。



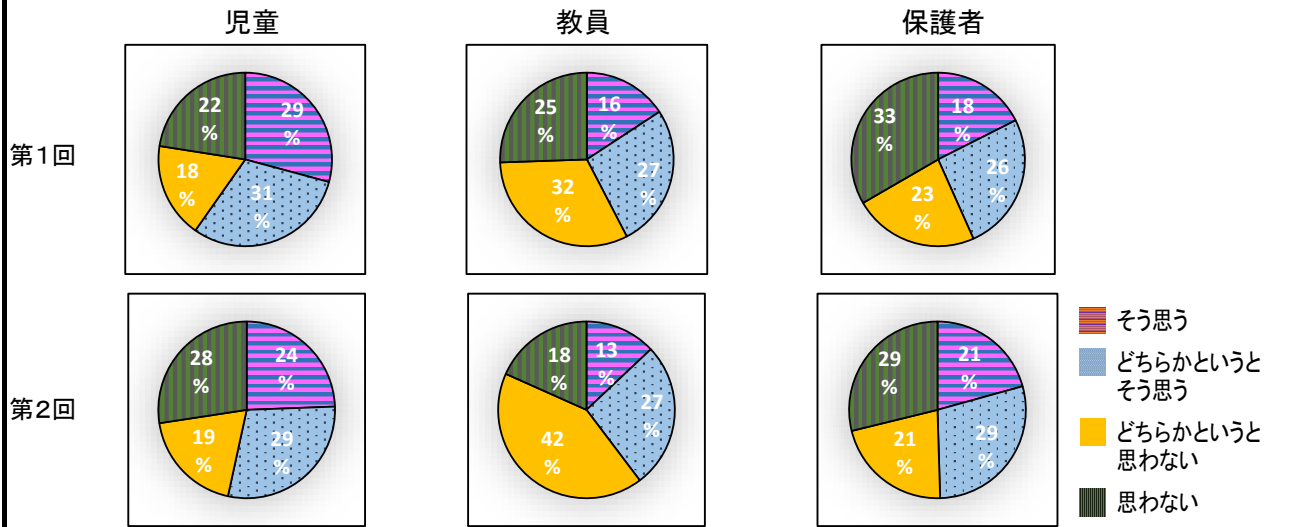
調査質問6の問題

教員と保護者の「そう思う」の回答がそれぞれ12ポイント、7ポイント増加しており、数学において、学習者用デジタル教科書を効果的な場面に絞って活用ができてきていると考えられる。

調査質問6の問題に対する対応

教員が学習者用デジタル教科書の使用について、学習場面を選んで効果的に活用できるよう引き続き使用方針について周知し、学校に指導をする。

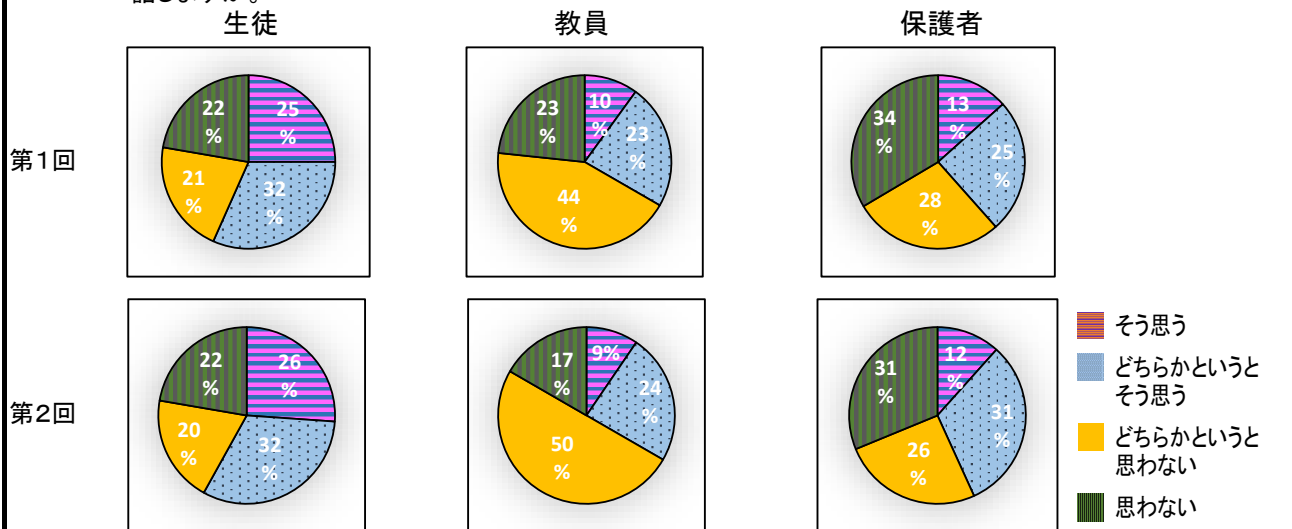
質問7 学習者用デジタル教科書の自主的な使用(小学校 算数)
 児童 7 わからないことを調べるときや、学習内容をもう一度確かめるために学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 教員 7 児童は、自主的に学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 保護者 7 お子さんは、ご自宅で学習者用デジタル教科書を使って学習をしている、もしくは、学校で使っていることを話しますか。



調査質問7の問題
 児童、教員の肯定的な回答がそれぞれ7ポイント、3ポイント減少しているが、保護者の肯定的な回答は6ポイント増加している。学校や家庭での学習者用デジタル教科書の使用が増えているが、児童が紙の教科書と学習者用デジタル教科書を場面によって使い分けし始めていることが考えられる。

調査質問7の問題に対する対応
 児童が学習者用デジタル教科書の使い方のわかる資料を提供し、学習等でわからないときは学習者用デジタル教科書の活用を促し、場面に応じて紙の教科書と併用していくことを継続して学校に指導する。

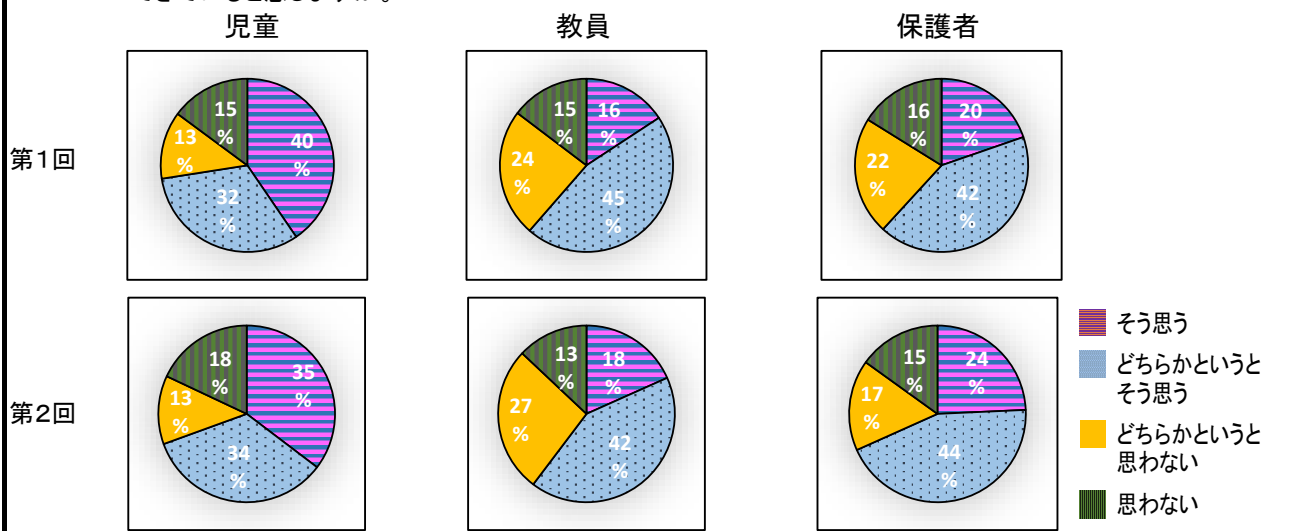
質問7 学習者用デジタル教科書の自主的な使用(中学校 数学)
 生徒 7 わからないことを調べるときや、学習内容をもう一度確かめるために学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 教員 7 生徒は、自主的に学習者用デジタル教科書を使っていますか。
 保護者 7 お子さんは、ご自宅で学習者用デジタル教科書を使って学習をしている、もしくは、学校で使っていることを話しますか。



調査質問7の問題
 保護者の肯定的な回答が5ポイント増加しており、学校や家庭での学習者用デジタル教科書の使用が増えていると考えられる。

調査質問7の問題に対する対応
 生徒が学習者用デジタル教科書の使い方がわかる資料を提供し、学習等でわからないときは学習者用デジタル教科書の活用を促し、場面に応じて紙の教科書と併用していくことを継続して学校に指導する。

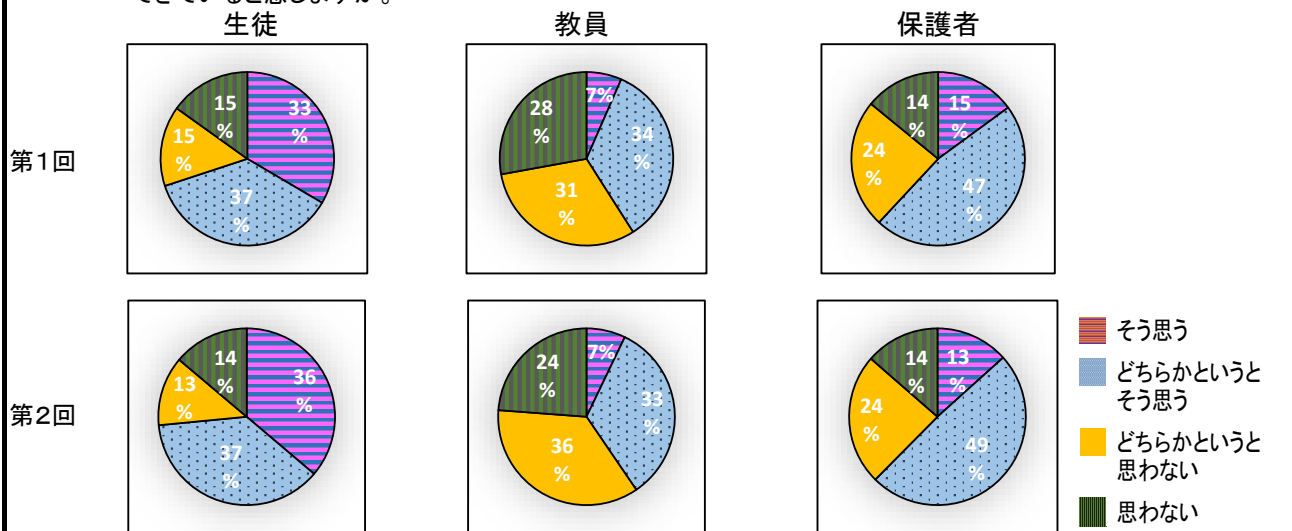
質問8 学習者用デジタル教科書の書き込み機能の効果(小学校 算数)
 児童 8 学習者用デジタル教科書の書き込みは、消して書き直すなど簡単にやり直すことができるので、書き間違いを気にせずに学習することができますか。
 教員 8 学習者用デジタル教科書に書き込む活動をする中で、児童は間違うことを恐れずに学習に取り組んでいますか。
 保護者 8 学習者用デジタル教科書に書き込むことで、簡単にやり直すことができ、お子さんは間違いを恐れずに学習できていると感じますか。



調査質問8の問題
 保護者の肯定的な回答が6ポイント増加しており、算数において、一人1本導入されたペンが活用されていると考えられる。

調査質問8の問題に対する対応
 学習者用デジタル教科書への書き込みには、一人1本導入されたペンを活用することを継続し、デジタルとアナログを使い分け、学習課題にあった教材を使用するよう学校に指導する。

質問8 学習者用デジタル教科書の書き込み機能の効果(中学校 数学)
 生徒 8 学習者用デジタル教科書の書き込みは、消して書き直すなど簡単にやり直すことができるので、書き間違いを気にせずに学習することができますか。
 教員 8 学習者用デジタル教科書に書き込む活動をする中で、生徒は間違うことを恐れずに学習に取り組んでいますか。
 保護者 8 学習者用デジタル教科書に書き込むことで、簡単にやり直すことができ、お子さんは間違いを恐れずに学習できていると感じますか。



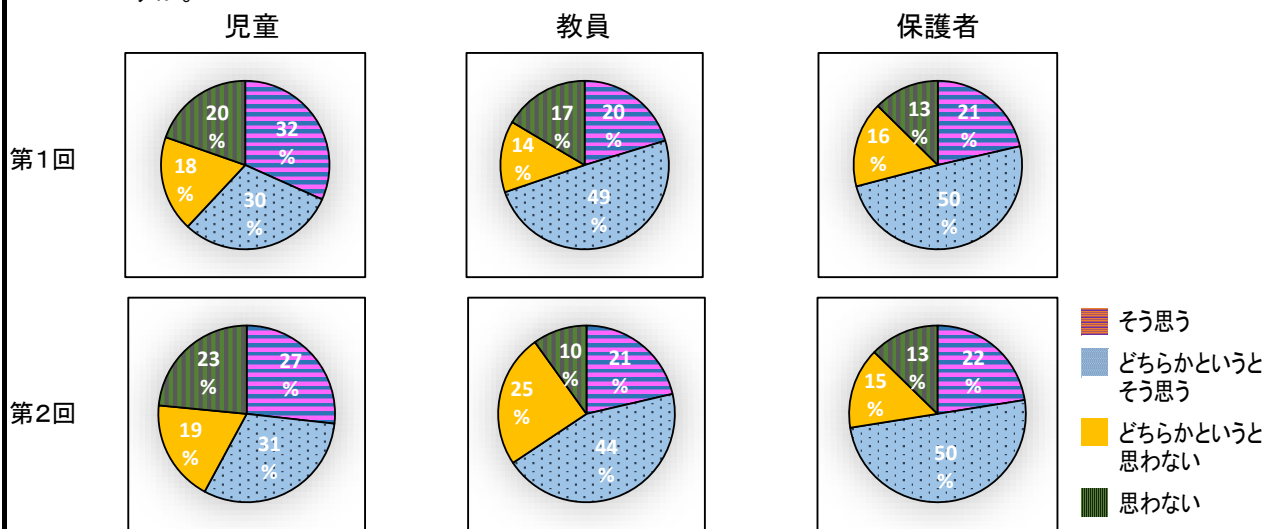
調査質問8の問題
 生徒の「そう思う」の回答が3ポイント増加しており、数学において、一人1本導入されたペンが活用されていると考えられる。

調査質問8の問題に対する対応
 学習者用デジタル教科書への書き込みには、一人1本導入されたペンを活用することを継続し、デジタルとアナログを使い分け、学習課題にあった教材を使用するよう学校に指導する。

質問9 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションの使用(小学校 算数)
 児童 9 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションなどを使っていますか。

教員 9 動画やアニメーションなどのデジタル教材を活用して、児童が学習者用デジタル教科書を使っていると感じていますか。

保護者 9 動画やアニメーションなどの学習者用デジタル教材は、お子さんの学習の理解に役立っていると感じていますか。



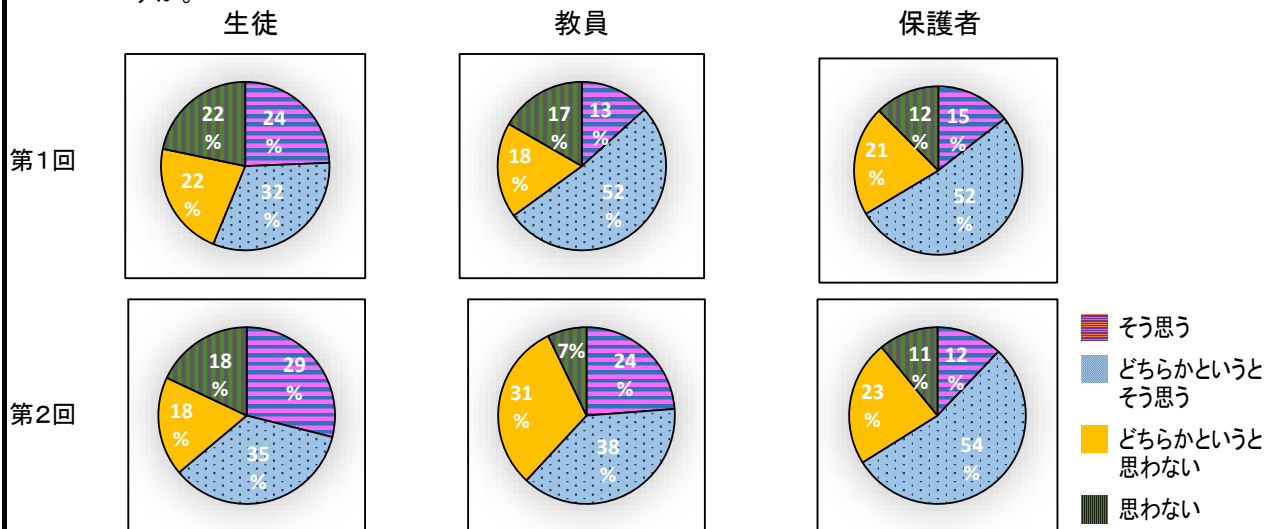
調査質問9の問題
 教員の肯定的な回答が4ポイント減少しており、動画やアニメーションなどのデジタル教材は理解につながっていると考えられるが、デジタル教材を見るだけにとどまっている可能性がある。

調査質問9の問題に対する対応
 児童が学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションを効果的に活用できる事例等の資料を学校に情報提供して継続して指導をする。

質問9 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションの使用(中学校 数学)
 生徒 9 学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションなどを使っていますか。

教員 9 動画やアニメーションなどのデジタル教材を活用して、生徒が学習者用デジタル教科書を使っていると感じていますか。

保護者 9 動画やアニメーションなどの学習者用デジタル教材は、お子さんの学習の理解に役立っていると感じていますか。



調査質問9の問題
 生徒の肯定的な回答は8ポイント、教員の「そう思う」回答は11ポイント増加しており、動画やアニメーションなどのデジタル教材を効果的に活用できていると考えられる。

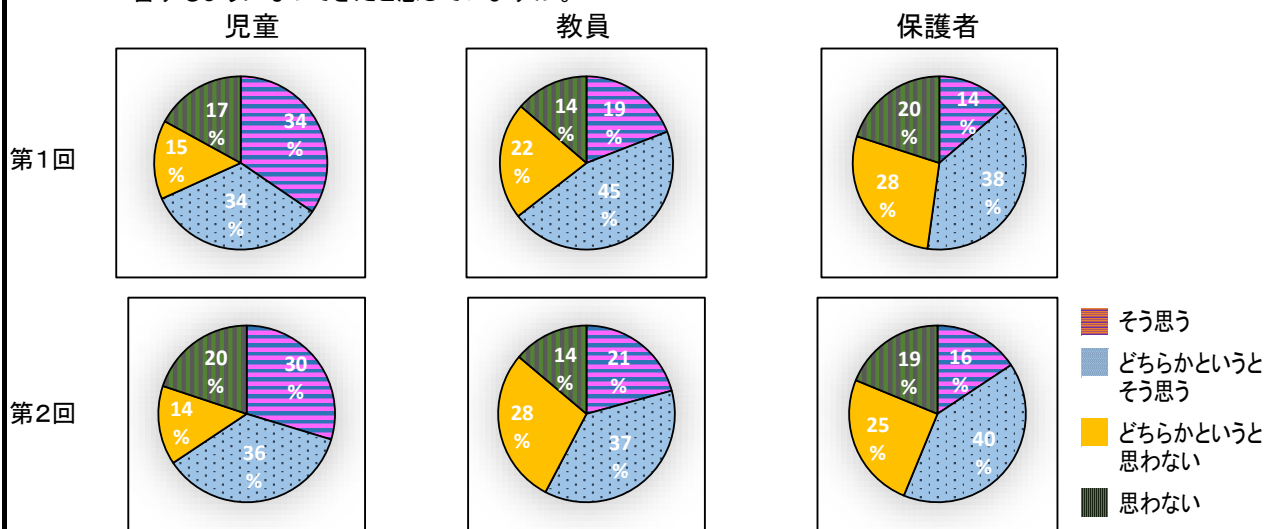
調査質問9の問題に対する対応
 児童が学習者用デジタル教科書の動画やアニメーションを効果的に活用できる事例等の資料を学校に情報提供して継続して指導をする。

質問10 学習者用デジタル教科書を使用した課題の取組(小学校 算数)

児童 10 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った課題に取り組むことで、算数・数学がわかるようになってきたと感じていますか。

教員 10 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った課題を設定することで、児童が意欲的に取り組み、学習効果があると感じますか。

保護者 10 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った課題に取り組むことで、お子さんは算数・数学を主体的に学習するようになってきたと感じていますか。



調査質問10の問題

保護者の肯定的な回答は4ポイント増加しているが、教員の肯定的な回答は6ポイント減少している。家庭学習において、学習者用デジタル教科書を使った課題は設定しているが、教員が課題の設定に難しさを感じていると考えられる。

調査質問10の問題に対する対応

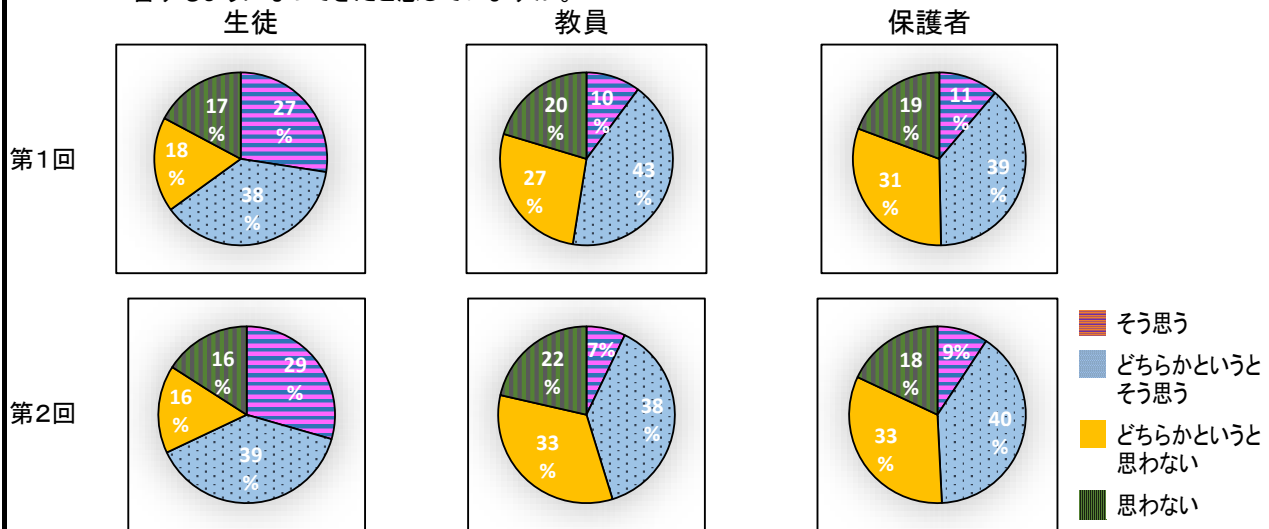
学習のねらいに応じて個別に学習者用デジタル教科書を活用する実践事例を提供し、家庭学習では、効果的に活用できる場面において、学習者用デジタル教科書のコンテンツを活用した課題を設定するよう継続して学校に指導する。

質問10 学習者用デジタル教科書を使用した課題の取組(中学校 数学)

生徒 10 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った課題に取り組むことで、算数・数学がわかるようになってきたと感じていますか。

教員 10 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った課題を設定することで、生徒が意欲的に取り組み、学習効果があると感じますか。

保護者 10 家庭学習で学習者用デジタル教科書を使った課題に取り組むことで、お子さんは算数・数学を主体的に学習するようになってきたと感じていますか。



調査質問10の問題

家庭学習において、学習者用デジタル教科書を使った課題は設定しているが、教員が課題の設定に難しさを感じていると考えられる。

調査質問10の問題に対する対応

学習のねらいに応じて個別に学習者用デジタル教科書を活用する実践事例を提供し、家庭学習では、効果的に活用できる場面において、学習者用デジタル教科書のコンテンツを活用した課題を設定するよう継続して学校に指導する。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	図書館を使った調べる学習コンクール全国コンクールの結果について																														
所管部課名	教育指導部教育指導課																														
内 容	1 審査結果 () は昨年度実績																														
	(1) 入賞																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>足立区受賞者数</th> <th>全国受賞者総数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 (0)</td> <td>33 (32)</td> </tr> </tbody> </table>		足立区受賞者数	全国受賞者総数	1 (0)	33 (32)																									
	足立区受賞者数	全国受賞者総数																													
	1 (0)	33 (32)																													
	(2) 入選																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>足立区受賞者数</th> <th>全国受賞者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優良賞</td> <td>5 (5)</td> <td>135 (134)</td> </tr> <tr> <td>奨励賞</td> <td>15 (20)</td> <td>266 (258)</td> </tr> <tr> <td>佳作</td> <td>155 (148)</td> <td>1,319 (1,256)</td> </tr> </tbody> </table>			足立区受賞者数	全国受賞者数	優良賞	5 (5)	135 (134)	奨励賞	15 (20)	266 (258)	佳作	155 (148)	1,319 (1,256)																	
		足立区受賞者数	全国受賞者数																												
	優良賞	5 (5)	135 (134)																												
	奨励賞	15 (20)	266 (258)																												
佳作	155 (148)	1,319 (1,256)																													
(3) 作品一覧 (優秀賞1作品、優良賞5作品、奨励賞15作品)																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>賞</th> <th>作品名</th> <th>学 校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優秀賞 (日本児童教育振興財団賞)</td> <td>発達障害について考える。</td> <td>西新井中2年</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">優良賞</td> <td>日焼けからエネルギー！？ ～この夏、太陽を追いかけてみた～</td> <td>西新井第一小4年</td> </tr> <tr> <td>わくわく左利きのなぞを解く</td> <td>千寿桜小4年</td> </tr> <tr> <td>体温の世界へようこそ</td> <td>舎人小5年</td> </tr> <tr> <td>ぼくのみみ 小耳症と片耳難聴について調べる</td> <td>長門小5年</td> </tr> <tr> <td>反抗期×思春期×喧嘩</td> <td>第九中2年</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">奨励賞</td> <td>古生物学者になるために</td> <td>東湊江小2年</td> </tr> <tr> <td>カマキリの「かま」ってどんなカマ？ ～カマキリの食事について調べたよ～</td> <td>西新井小2年</td> </tr> <tr> <td>日本人の食事の歴史 (知れば知るほど大切さが分かる！日本人にとってのお米)</td> <td>千寿本町小3年</td> </tr> <tr> <td>くも膜下出血について</td> <td>中川小3年</td> </tr> <tr> <td>時間と時間を計る道具「時計」について</td> <td>千寿桜小3年</td> </tr> <tr> <td>私のまちの災害対策 ～避難所ってどんなところ？～</td> <td>宮城小4年</td> </tr> </tbody> </table>		賞	作品名	学 校	優秀賞 (日本児童教育振興財団賞)	発達障害について考える。	西新井中2年	優良賞	日焼けからエネルギー！？ ～この夏、太陽を追いかけてみた～	西新井第一小4年	わくわく左利きのなぞを解く	千寿桜小4年	体温の世界へようこそ	舎人小5年	ぼくのみみ 小耳症と片耳難聴について調べる	長門小5年	反抗期×思春期×喧嘩	第九中2年	奨励賞	古生物学者になるために	東湊江小2年	カマキリの「かま」ってどんなカマ？ ～カマキリの食事について調べたよ～	西新井小2年	日本人の食事の歴史 (知れば知るほど大切さが分かる！日本人にとってのお米)	千寿本町小3年	くも膜下出血について	中川小3年	時間と時間を計る道具「時計」について	千寿桜小3年	私のまちの災害対策 ～避難所ってどんなところ？～	宮城小4年
賞	作品名	学 校																													
優秀賞 (日本児童教育振興財団賞)	発達障害について考える。	西新井中2年																													
優良賞	日焼けからエネルギー！？ ～この夏、太陽を追いかけてみた～	西新井第一小4年																													
	わくわく左利きのなぞを解く	千寿桜小4年																													
	体温の世界へようこそ	舎人小5年																													
	ぼくのみみ 小耳症と片耳難聴について調べる	長門小5年																													
	反抗期×思春期×喧嘩	第九中2年																													
奨励賞	古生物学者になるために	東湊江小2年																													
	カマキリの「かま」ってどんなカマ？ ～カマキリの食事について調べたよ～	西新井小2年																													
	日本人の食事の歴史 (知れば知るほど大切さが分かる！日本人にとってのお米)	千寿本町小3年																													
	くも膜下出血について	中川小3年																													
	時間と時間を計る道具「時計」について	千寿桜小3年																													
	私のまちの災害対策 ～避難所ってどんなところ？～	宮城小4年																													

奨励賞	私たちの世界にはオノマトペがいっぱい！	千寿第八小4年
	のびろ體大調査	千寿第八小4年
	手あれの原因は何だろう？	花畑第一小4年
	アマガエル先生に学ぶ「泳ぎ方」	西新井小4年
	昆虫は減少している！？	千寿常東小5年
	みんなは知っている？感染症のこと ～病原体・微生物・ワクチン～	弘道第一小5年
	古墳の大研究	東伊興小5年
	知ることは希望になる 海とウニと僕	新田小6年
	校歌って何だろう？ ～綾瀬小学校の校歌を作詞した土岐善磨さんの真っ直ぐな生き方～	綾瀬小6年

2 今後の方針

- (1) 入賞（優秀賞）及び入選（優良賞、奨励賞、佳作）の児童・生徒については、作品名、学校名等を足立区ホームページ上で紹介し、また、特に優良な作品については、作品の内容を紹介している。
※ 西新井中2年生の優秀賞受賞作品については、生徒名及び作品名のみを足立区ホームページ上に掲載し、内容については公表しない。
- (2) 区小中研や区立図書館等との連携をさらに深め、よい作品を周知するとともに教員の指導力向上に努め、作品の質の向上を図る。
- (3) コンクール開催の通知を早めたことで、テーマ決めや調べ学習に時間をかけて取り組む作品が多く見られた。次年度も同様に通知を早め、授業における調べ学習への取組の向上を図る。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	流山市立おおぐろの森中学校視察結果の報告について
所管部課名	教育指導部 教育指導課
内容	<p>流山市立おおぐろの森中学校の視察について、以下のとおり報告する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 生徒の心理的安全性に配慮した学校運営やICT機器を活用した授業改善、自動採点システム導入による効率化の状況等を視察し、足立区の学校運営の参考とする。 2 日時 令和6年2月7日（水） 午後1時40分から午後4時30分まで 3 視察先 流山市立おおぐろの森中学校（千葉県流山市大畔581） 4 学校設置の背景、特徴について <ol style="list-style-type: none"> (1) TX流山おおたかの森駅周辺の人口増加により、おおたかの森中学校より分離して2022年（令和4年）4月に開校。 (2) 新生193名を加え全校生徒335名でスタートしたばかりの新設校であり、令和5年度の全校生徒は540名である。 (3) 効率的な学習環境の整備の一環として、普通教室に電子黒板機能付きプロジェクターを導入する等先進的なICTの活用を推進している。 (4) 公立高等学校の入試の傾向が、知識重視から、コミュニケーション力や論理的思考力が問われる出題へと変化していることを踏まえて、生徒の自律に重きを置いた、人間力の育成に努めている。 5 流山市対応者 流山市教育委員会 教育長ほか4名 流山市立おおぐろの森中学校 校長ほか4名 6 足立区教育委員会視察者 足立区教育委員会 教育長 教育指導部 管理職ほか12名 こども支援センターげんき 管理職2名 7 流山市立おおぐろの森中学校の教育について <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校運営について <ol style="list-style-type: none"> ア 自律と心理的安全性を目標に据え、多様性の尊重をテーマに自ら考え、選択して行動できる生徒の育成を目指している。 イ 校則を撤廃し、生徒の自律を促すとともに、教職員の指導時間の削減にもつなげている。 ウ 部活動の朝練習を廃止し、生徒の睡眠時間などゆとりのある生活を大切にしている。

(2) ICT教育環境の整備について

ア チョークを使わず、電子黒板機能付きプロジェクターを活用し、教材の蓄積による教材研究時間を削減している。

イ 年に1日、全校でオンライン授業を実施し、災害時等に備えている。

(3) 業務改善について

ア 夏休みの家庭学習の一律の課題を廃止し、教員の評価時間を削減している。

イ テストの自動採点システムを導入し、業務の効率化を図っている。

(4) 学校施設について

「ヒーリングスクール」をコンセプトに、自然と国内最大級の木造校舎の温もりの中で癒しの空間、安心感を与えている。

8 今後の方針

(1) 今回の視察を踏まえ、流山市立おおぐろの森中学校で実践されている取組について、研究を進めていく。

(2) 自動採点システム、電子黒板機能付きプロジェクターについては、学習面や業務効率化の効果と経費等を比較するなどして、導入について研究していく。

(3) 大型ディスプレイやデジタルノートを活用した授業については、本区でも同様の取組をモデル校で行っている。引き続きモデル校の支援をしていくとともに、研修や公開授業を通して、活用事例の横展開を図っていく。

(4) 本区の「学校の決まり（校則）」については、廃止ではなく、これからの社会で活躍していく生徒たちの規範意識を育てるため、生徒が主体的に「考え」守ることのできる学校のきまりとなるよう、生徒、保護者、学校、地域の皆で検討していく。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	東湊江小学校改築時における仮設校舎について
所属部課名	学校運営部 学校施設管理課 施設営繕部 東部地区建設課
内容	<p>東湊江小学校改築時における仮設校舎については、区として総合的に判断し、以下の方針としたことを報告する。</p> <p>1 方針</p> <p>東湊江小学校改築時における仮設校舎は、旧こども家庭支援センター（以後「旧こ家セン」とする。）にある仮設校舎（現在は東綾瀬中学校の仮設校舎として使用）を利用する。</p> <p>2 本方針に至った理由</p> <p>(1) 子どもの教育環境 バスの送迎時の安全対策を十分行うことが前提ではあるが、校庭があり、騒音・振動のない環境の中で、授業を行うことが可能となり、かつ学校現場も望んでいる。</p> <p>(2) 旧こ家センの跡地活用スケジュールへの影響 旧こ家センの跡地活用スケジュールの見直しがあり（注）、東湊江小学校が現存仮設校舎を使用したとしても、スケジュールの遅延が最小限にとどまることが確認できた。</p> <p>(3) 新校舎開校までの工期 現存の旧こ家センに設置している仮設校舎（現在は東綾瀬中学校の仮設校舎として使用）を引き続き使用することにより仮設校舎入札不調の課題を解消でき、工期の短縮が図れる。</p> <p>(4) 費用対効果の観点 現存の仮設校舎を使用した場合、約3億円の経費削減が見込まれる。</p> <p>3 今後の対応</p> <p>(1) バス送迎に関する保護者の不安を払拭すべく、安全対策に最大限努力する。</p> <p>(2) 児童の個々の事情には、可能な限り対応していく。</p> <p>(3) 旧こ家セン跡地活用がスケジュールどおり進むよう、東湊江小学校新校舎開設にあたっては、解体と建築工事を一緒に発注するなど、工期の遅延を防止する方策を検討する。</p> <p>(4) 旧こ家センの跡地利用については、地域の要望を丁寧に確認し、地域に喜ばれる施設の設置に取り組む。</p> <p>（注）1月25日のエリアデザイン調査特別委員会にて、旧こ家センの跡地利用計画が「地元からの様々な要望を丁寧に確認することや綿密な庁内調整を行うため、地区計画の手続及び設計期間の見直し」の時間を確保するため、当初案より1年程度遅れる見込みであることを報告した。</p>

4 2月29日開催の保護者向け説明会の実施結果について

(1) 開催日時 令和6年2月29日(木)

第1回 午後3時から

第2回 午後4時から

(2) 開催場所 東湊江小学校 体育館

(3) 参加者 第1回：60名 第2回：47名

(4) 主な質疑内容

Q1：自校内仮設で進めるということ自体に、問題があったのではない
か。

A1：近隣に土地がないため自校内で進めることを前提とし、東綾瀬中
学校の仮設校舎を利用するという考えは当初なかった。今回は仮
設校舎建設の入札不調が続き、先の見通しが立たない中で、東綾
瀬中学校の仮設延長使用の検討に着手し、教育環境が良くなるこ
とを最大限考慮した方向性とした。

Q2：新校舎建設の業者は決まっているのか。入札不調により、仮設校
舎利用が伸びる可能性はあるのか。

A2：業者は決まっていない。今般の社会情勢から、不調になるリスク
は常にある。工期が遅れないよう、発注方式を一部一括で発注す
るなど、最大限努力する。

Q3：東綾瀬中学校の仮設校舎を小学校仕様に改修する業者が決まらな
いということはあるのか。

A3：現在のリース業者が改修するため、その可能性はない。

Q4：バス使用に関する子どもの安全管理はどのようになるか。

A4：バスには添乗員が1名乗車し、車内での安全管理に努める。ま
た、バス乗り場では車両の出入りの際、警備員を配置する予定で
ある。

Q5：バスの配車はどのように考えているのか。

A5：子どもたちがバス乗り場に滞留しないよう、運行スケジュールや
登校時間については、学校と調整していく。例えば、下校時間を
学年ごととし、時間を輪番で変更するなど検討していく。

Q6：バス乗り場に屋根はつけるのか。

A6：屋根を設置し、雨や日射対策とする。また、トイレも設置する予
定である。

Q7：プールの授業は実施できるのか。

A7：東綾瀬公園の温水プールを使用し、児童はバスで送迎する予定で
ある。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	「給付型奨学金」「返済支援助成」の課題検討（案）について													
所管部課名	学校運営部学務課													
内容	<p>「給付型奨学金」「返済支援助成」の検討課題について、1月25日（木）に開催した『第2回 足立区育英資金検討委員会』にて審議した結果を、以下のとおり報告する。</p> <p>1 検討した課題</p> <p>(1) 給付型奨学金</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">No.</th> <th style="width: 15%;">分類</th> <th style="width: 45%;">課題及び方向性（案）</th> <th style="width: 35%;">審議結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">評定平均 ・ 成績基準</td> <td> 課題 【応募時】 成績 4.0 以上の評定平均を取るための難易度が各校によって異なる <div style="text-align: center;">↓</div> 方向性（案） ① 評定平均 4.0 以上は継続 ② ①に該当しない学生を対象とした「一斉テスト」を実施予定 </td> <td> 審議結果 実施を了承 （主な意見） <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績要件を満たさない学生の受け皿となる ・ 成績要件⇔テスト採用割合 [成績要件3：テスト1] ・ 募集要項にて明確に示す（基準はあくまでも「評定平均4.0以上」） </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td> 課題 【入学後】 学校のレベルにより、入学後に成績 4.0 以上の評定を続けることが困難 <div style="text-align: center;">↓</div> 方向性（案） 以下①②のいずれかを毎年確認 ① 大学等の成績平均値の上位 75%以上（大学等へ照会） ② 留年していないこと </td> <td> 審議結果 継続審議 （主な意見） <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的に「卒業できるかどうか」に重点を置くべき（4.0 以上をキープすることは重要ではない） ・ 卒業に必要な全単位を年数で割り基準として、毎年確認してはどうか ・ 成績で見えない部分（活動・研修等）での評価も重要 ⇒レポート・報告書作成 </td> </tr> </tbody> </table>			No.	分類	課題及び方向性（案）	審議結果	1	評定平均 ・ 成績基準	課題 【応募時】 成績 4.0 以上の評定平均を取るための難易度が各校によって異なる <div style="text-align: center;">↓</div> 方向性（案） ① 評定平均 4.0 以上は継続 ② ①に該当しない学生を対象とした「一斉テスト」を実施予定	審議結果 実施を了承 （主な意見） <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績要件を満たさない学生の受け皿となる ・ 成績要件⇔テスト採用割合 [成績要件3：テスト1] ・ 募集要項にて明確に示す（基準はあくまでも「評定平均4.0以上」） 	2	課題 【入学後】 学校のレベルにより、入学後に成績 4.0 以上の評定を続けることが困難 <div style="text-align: center;">↓</div> 方向性（案） 以下①②のいずれかを毎年確認 ① 大学等の成績平均値の上位 75%以上（大学等へ照会） ② 留年していないこと	審議結果 継続審議 （主な意見） <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的に「卒業できるかどうか」に重点を置くべき（4.0 以上をキープすることは重要ではない） ・ 卒業に必要な全単位を年数で割り基準として、毎年確認してはどうか ・ 成績で見えない部分（活動・研修等）での評価も重要 ⇒レポート・報告書作成
No.	分類	課題及び方向性（案）	審議結果											
1	評定平均 ・ 成績基準	課題 【応募時】 成績 4.0 以上の評定平均を取るための難易度が各校によって異なる <div style="text-align: center;">↓</div> 方向性（案） ① 評定平均 4.0 以上は継続 ② ①に該当しない学生を対象とした「一斉テスト」を実施予定	審議結果 実施を了承 （主な意見） <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績要件を満たさない学生の受け皿となる ・ 成績要件⇔テスト採用割合 [成績要件3：テスト1] ・ 募集要項にて明確に示す（基準はあくまでも「評定平均4.0以上」） 											
2		課題 【入学後】 学校のレベルにより、入学後に成績 4.0 以上の評定を続けることが困難 <div style="text-align: center;">↓</div> 方向性（案） 以下①②のいずれかを毎年確認 ① 大学等の成績平均値の上位 75%以上（大学等へ照会） ② 留年していないこと	審議結果 継続審議 （主な意見） <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終的に「卒業できるかどうか」に重点を置くべき（4.0 以上をキープすることは重要ではない） ・ 卒業に必要な全単位を年数で割り基準として、毎年確認してはどうか ・ 成績で見えない部分（活動・研修等）での評価も重要 ⇒レポート・報告書作成 											

No.	分類	課題及び方向性 (案)	審議結果
3	選考基準	<u>課題</u> 一定程度の評価点 (足切り地点) の設定は必要か 【一次 (学修計画表)】 ↓ <u>方向性 (案)</u> ① 足切りは設定せず、「成績」「所得」「学修計画表」の合計点順に審査 ② 一次審査 (学修計画表) の成績分布の下位 5% である「E 判定」を落選	<u>審議結果</u> <u>継続審議</u> (主な意見) ・「学修計画表」にて記載を求めている内容が漏れている場合は減点対象とすべき ・事務軽減を目的とするものでなければ、特に現状のままでも問題ないのでは
4		【二次 (面談)】 ↓ <u>方向性 (案)</u> ① 面談は「最終の意思確認」を行うのみとし、足切り (落選) はなし ② 面談にて面接官全員が「E 判定」を付けた場合は足切り (落選)	<u>審議結果</u> <u>継続審議</u> (主な意見) ・本番に弱い (緊張して話せない等) の学生がいるので、こうした学生の対応を考えるべき ・「緊張」と「やる気がない」は別 ⇒「やる気がない」学生については「E 判定」も可

(2) 返済支援助成

課題及び方向性 (案)	審議結果
<u>課題</u> 既に大学等を卒業し、奨学金の返済を始めている方への支援 大学等に進学予定または在学中で、対象となる奨学金を借りている方に対して、借入金額の半額 (上限：100 万円) を助成 ↓ <u>方向性 (案)</u> 既に大学等を卒業し、奨学金の返済を開始した方で以下のいずれかに該当する方に対して支援 ① 失業中または所得が基準以下 ② 更なる修学 (大学院在学) を行う	<u>審議結果</u> <u>継続審議</u> (主な意見) ・考えられる具体事例を挙げて、引き続き審議していく。

2 今後の対応

(1) 給付型奨学金

令和6年度募集に向けて、「一斉テスト」実施へ向けた準備を進める。

また、継続審議となった課題について、令和6年度募集前に「足立区育英資金検討委員会」を開催し、改めて審議していく。

(2) 返済支援助成

上記(1)とともに、「足立区育英資金検討委員会」において支援策の具体的な内容について、改めて審議していく。

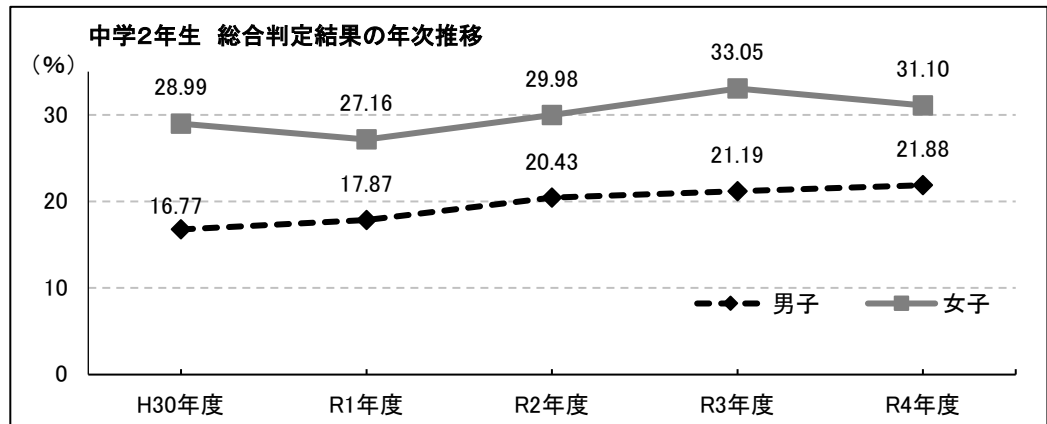
文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	足立区学校保健統計書（令和4年度実績）の概要について																																																										
所管部課名	学校運営部学務課																																																										
内容	<p>令和4年度健康診断等の集計結果の概要について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 統計書の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 児童生徒の発育状態 (2) 貧血・小児生活習慣病予防健診結果 (3) 定期健康診断疾病異常調査結果 (4) 脊柱側弯症検診結果 (5) 就学時健康診断結果 (6) 児童生徒の感染症り患状況 (7) 学校管理下における災害発生状況 <p>2 概要</p> <p>(1) 児童生徒の発育状態</p> <p>肥満傾向（肥満度20%以上）の割合は、過去5年間、微増で推移している。また、すべての学年で肥満傾向の割合が全国・東京都を上回っている。</p> <div data-bbox="379 1256 1430 1608"> <p>肥満傾向(肥満度20%以上)割合年次推移【男女合計】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>小学生 (%)</th> <th>中学生 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30年度</td> <td>9.07</td> <td>10.34</td> </tr> <tr> <td>R1年度</td> <td>9.22</td> <td>10.77</td> </tr> <tr> <td>R2年度</td> <td>12.33</td> <td>13.37</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>10.87</td> <td>12.57</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>12.21</td> <td>13.52</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="379 1621 1430 2047"> <p>肥満傾向児（20%以上）出現率【男女合計】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校</th> <th>全国 (%)</th> <th>東京都 (%)</th> <th>足立区 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小1</td> <td>5.67</td> <td>4.5</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>小2</td> <td>9.52</td> <td>7.5</td> <td>9.5</td> </tr> <tr> <td>小3</td> <td>11.90</td> <td>9.5</td> <td>11.5</td> </tr> <tr> <td>小4</td> <td>14.85</td> <td>10.5</td> <td>14.5</td> </tr> <tr> <td>小5</td> <td>15.09</td> <td>11.5</td> <td>15.0</td> </tr> <tr> <td>小6</td> <td>15.78</td> <td>11.5</td> <td>15.5</td> </tr> <tr> <td>中1</td> <td>13.80</td> <td>10.5</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>13.65</td> <td>10.5</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>中3</td> <td>13.10</td> <td>10.5</td> <td>13.0</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	小学生 (%)	中学生 (%)	H30年度	9.07	10.34	R1年度	9.22	10.77	R2年度	12.33	13.37	R3年度	10.87	12.57	R4年度	12.21	13.52	学校	全国 (%)	東京都 (%)	足立区 (%)	小1	5.67	4.5	5.5	小2	9.52	7.5	9.5	小3	11.90	9.5	11.5	小4	14.85	10.5	14.5	小5	15.09	11.5	15.0	小6	15.78	11.5	15.5	中1	13.80	10.5	13.5	中2	13.65	10.5	13.5	中3	13.10	10.5	13.0
年度	小学生 (%)	中学生 (%)																																																									
H30年度	9.07	10.34																																																									
R1年度	9.22	10.77																																																									
R2年度	12.33	13.37																																																									
R3年度	10.87	12.57																																																									
R4年度	12.21	13.52																																																									
学校	全国 (%)	東京都 (%)	足立区 (%)																																																								
小1	5.67	4.5	5.5																																																								
小2	9.52	7.5	9.5																																																								
小3	11.90	9.5	11.5																																																								
小4	14.85	10.5	14.5																																																								
小5	15.09	11.5	15.0																																																								
小6	15.78	11.5	15.5																																																								
中1	13.80	10.5	13.5																																																								
中2	13.65	10.5	13.5																																																								
中3	13.10	10.5	13.0																																																								

(2) 貧血・小児生活習慣病予防健診（中2）

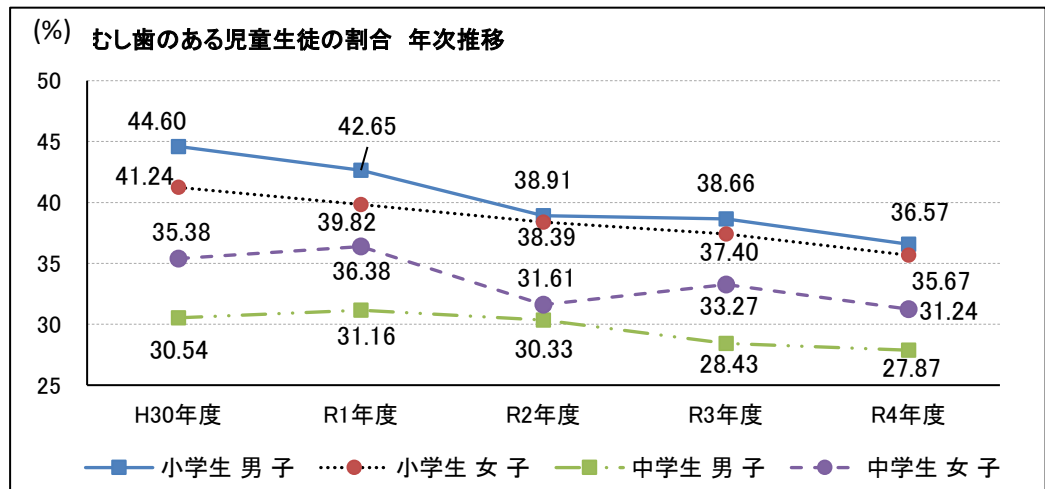
総合判定結果は、男子の4.6人に1人、女子の3.2人に1人が有所見者である。なお、前年度と比較して男子は横ばい、女子は減少している。



※ 有所見とは正常・管理不要以外の診断だったもの

(3) むし歯

むし歯のある児童生徒の割合は、小学生・中学生ともに減少傾向にある。また、すべての学年でむし歯のある割合が東京都平均を上回っている。



乳歯または永久歯のむし歯(治療済みのむし歯も含む。)のある児童生徒の割合 <単位:%>

		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
男子	足立区	28.57	35.27	42.77	45.69	36.64	30.21	26.19	28.60	28.82
	東京都	22.46	30.25	36.22	39.23	35.10	26.68	24.20	24.78	27.68
女子	足立区	26.57	34.47	43.03	42.82	35.21	31.83	28.77	32.21	32.79
	東京都	21.28	28.48	34.58	36.87	31.48	26.03	26.33	29.24	32.20

3 今後の方針

区ホームページで公表するとともに、各学校及び関係部署と共有し、児童生徒の健康教育に活用していく。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	物価高騰による学校給食費の増額（案）について																											
所管部課名	学校運営部学務課																											
内容	<p>学校給食費（以下「給食費」という。）に関する近年の物価高騰分については、保護者負担額は変更せず、区が負担してきた。</p> <p>令和5年度からの給食費無償化（区立小学校は令和5年10月から）により保護者負担がなくなったため、予算案の議決が得られた際には、給食費単価を適正価格に増額し、学校給食の質の低下を防ぐ。</p>																											
	<p>1 現状（令和5年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学年</th> <th>給食費 (1食単価)</th> <th>物価高騰分 (給食費に上乘せ)</th> <th>食材経費 (合計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小学校</td> <td>1・2年</td> <td>247円</td> <td rowspan="3">10.84円</td> <td>257.84円</td> </tr> <tr> <td>3・4年</td> <td>265円</td> <td>275.84円</td> </tr> <tr> <td>5・6年</td> <td>281円</td> <td>291.84円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>1～3年</td> <td>334円</td> <td>12.57円</td> <td>346.57円</td> </tr> <tr> <td>夜間学級</td> <td>348円</td> <td>12.63円</td> <td>360.63円</td> </tr> </tbody> </table>					学年	給食費 (1食単価)	物価高騰分 (給食費に上乘せ)	食材経費 (合計)	小学校	1・2年	247円	10.84円	257.84円	3・4年	265円	275.84円	5・6年	281円	291.84円	中学校	1～3年	334円	12.57円	346.57円	夜間学級	348円	12.63円
	学年	給食費 (1食単価)	物価高騰分 (給食費に上乘せ)	食材経費 (合計)																								
小学校	1・2年	247円	10.84円	257.84円																								
	3・4年	265円		275.84円																								
	5・6年	281円		291.84円																								
中学校	1～3年	334円	12.57円	346.57円																								
	夜間学級	348円	12.63円	360.63円																								
<p>2 令和6年度以降</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学年</th> <th>令和6年度の給食費 (R6物価高騰による増額分) ※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小学校</td> <td>1・2年</td> <td>271.94円 (14.10円の増額)</td> </tr> <tr> <td>3・4年</td> <td>289.94円 (14.10円の増額)</td> </tr> <tr> <td>5・6年</td> <td>305.94円 (14.10円の増額)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中学校</td> <td>1～3年</td> <td>362.69円 (16.12円の増額)</td> </tr> <tr> <td>夜間学級</td> <td>376.8円 (16.17円の増額)</td> </tr> </tbody> </table>					学年	令和6年度の給食費 (R6物価高騰による増額分) ※	小学校	1・2年	271.94円 (14.10円の増額)	3・4年	289.94円 (14.10円の増額)	5・6年	305.94円 (14.10円の増額)	中学校	1～3年	362.69円 (16.12円の増額)	夜間学級	376.8円 (16.17円の増額)										
	学年	令和6年度の給食費 (R6物価高騰による増額分) ※																										
小学校	1・2年	271.94円 (14.10円の増額)																										
	3・4年	289.94円 (14.10円の増額)																										
	5・6年	305.94円 (14.10円の増額)																										
中学校	1～3年	362.69円 (16.12円の増額)																										
	夜間学級	376.8円 (16.17円の増額)																										
<p>※ 食材業者の価格表（令和5年度中）を参考にしながら、令和6年度の牛乳やパン・麺の高騰見込み分も含めて積算。</p>																												

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	令和6年度ジュニアリーダー研修会の宿泊キャンプ参加費用（案）について																																								
所管部課名	子ども家庭部青少年課																																								
内容	<p>令和6年度のジュニアリーダー研修会（※1）修了者等が参加する宿泊キャンプの参加費について、当初予算（案）の議決が得られた際には、以下のとおり自己負担額を減額し、その差額分を公費負担額として増額することで手当とする。あわせて就学援助の方は参加費無料として実施する。</p> <p>※1 ジュニアリーダー研修会 基本的に子ども会を中心に地域活動を行う中高生（ジュニアリーダー）を育てるための小学生向け研修会</p> <p>1 自己負担額を減額する目的 金銭的な理由で子どもたちの体験活動の機会を失うことが無いよう、自己負担額を減額し多くの参加資格者が参加申込みをしやすくすることを目的とする。</p> <p>2 宿泊キャンプ（2泊3日）</p> <p style="text-align: right;">(円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">主な経費</th> <th style="width: 25%;">令和5年度</th> <th style="width: 25%;">令和6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>食材費（食事代）</td> <td style="text-align: right;">5,000</td> <td style="text-align: right;">5,000</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>Tシャツ、教材費等</td> <td style="text-align: right;">5,000</td> <td style="text-align: right;">5,000</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>貸切バス代</td> <td style="text-align: right;">5,000 (内2,000 公費負担)</td> <td style="text-align: right;">6,000</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>宿泊費（※2）</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">1,200</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>人件費・物品運搬</td> <td style="text-align: right;">20,000</td> <td style="text-align: right;">19,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right;">35,000</td> <td style="text-align: right;">36,200</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">↓</td> <td style="text-align: center;">↓</td> </tr> <tr> <td></td> <td>自己負担額</td> <td style="text-align: right;">①+②+③ 13,000</td> <td style="text-align: right;">② 5,000 (就学援助の方は無料)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>公費負担額（委託）</td> <td style="text-align: right;">22,000</td> <td style="text-align: right;">31,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>※2 宿泊費 令和6年度から宿泊費（国立中央青少年交流の家）が無料から有料（1人当たり高校生以下600円・大人2,500円／1泊）となった。なお、足立区立鋸南自然の家については、宿泊費はかからない。</p>		主な経費	令和5年度	令和6年度	①	食材費（食事代）	5,000	5,000	②	Tシャツ、教材費等	5,000	5,000	③	貸切バス代	5,000 (内2,000 公費負担)	6,000	④	宿泊費（※2）	0	1,200	⑤	人件費・物品運搬	20,000	19,000		合 計	35,000	36,200			↓	↓		自己負担額	①+②+③ 13,000	② 5,000 (就学援助の方は無料)		公費負担額（委託）	22,000	31,200
	主な経費	令和5年度	令和6年度																																						
①	食材費（食事代）	5,000	5,000																																						
②	Tシャツ、教材費等	5,000	5,000																																						
③	貸切バス代	5,000 (内2,000 公費負担)	6,000																																						
④	宿泊費（※2）	0	1,200																																						
⑤	人件費・物品運搬	20,000	19,000																																						
	合 計	35,000	36,200																																						
		↓	↓																																						
	自己負担額	①+②+③ 13,000	② 5,000 (就学援助の方は無料)																																						
	公費負担額（委託）	22,000	31,200																																						

3 日程・場所・対象（予定）

	日程	場所	対象
①	8月10日（土） ～12日（月・休）	国立中央青少年交流の家 （静岡県御殿場市）	小学6年生及び 中学生
②	11月2日（土） ～4日（月・休）	足立区立鋸南自然の家 （千葉県鋸南町）	小学5年生

4 今後の方針

事業の実施にあたっては、委託先である足立区少年団体連合協議会と詳細を協議していく。

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	特例課程教室あすテップの今後の方針について
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課
内容	<p>特例課程教室あすテップの今後の運営方針については、令和5年1月20日の文教委員会報告で、令和6年4月開校予定の東京みらい中学校との連携内容等を踏まえ、令和5年度中に決定することとなっていた。</p> <p>この度、過去3年間の検証会議に参加した学識経験者から引き続き意見をいただいたことを踏まえ、今後の方針について報告する。</p> <p>1 今後の方針</p> <p>(1) 特例課程教室あすテップについては、令和4年12月の検証会議の検証結果（令和5年1月20日文教委員会報告）に加え、項番2の(2)(3)(4)を理由として、現行のスタイルを維持しながら、不登校生徒の多様な状況に柔軟に対応していく。</p> <p>(2) 東京みらい中学校との連携や設置校との連携も充実させることにより、多様な支援を提供していく。</p> <p>(3) あすテップの運営状況は今後も継続して見守り、状況報告する。</p> <p>(4) 今後は、学びの多様化学校の設置状況等あすテップを取り巻く状況に変化がみられた際には、引き続き学識経験者等から意見聴取し、あすテップの在り方を検討する。</p> <p>2 学識経験者の意見</p> <p>(1) 保護者にとって、あすテップは不登校状態と通学状態の中間的な状況であり、快い場所になっているのであろう。</p> <p>(2) あすテップの運用は成功しているようであり、効果的である。</p> <p>(3) 保護者や通級生からも在籍校に籍を残したままの現行のスタイルは高く評価されている。</p> <p>(4) これらを踏まえ、あすテップそのものを現状から大きく変える必要性は高くないと考えられる。</p> <p>(5) 学校内設置のメリットを利用し、設置校の設備の活用や設置校の生徒との連携も、支援メニューとして様々あるといいだろう。</p>

3 会議実施日時

令和6年1月23日（火） 午後1時半から3時まで

※ オンラインで会議を実施

4 参加者

学識経験者 ルーテル学院大学教授

足立区 こども支援センターげんき所長、教育相談課長、
指導主事、不登校施策担当係長他

5 会議での報告内容

(1) あすトップの通級状況（令和5年度）

あすトップなでしこ	11人
〃 はなほ	7人

※ 1月末現在。体験生除く。

(2) 調査項目

ア 区学力定着に関する総合調査（学力、意識）の比較

イ チャレンジ学級や設置校との比較

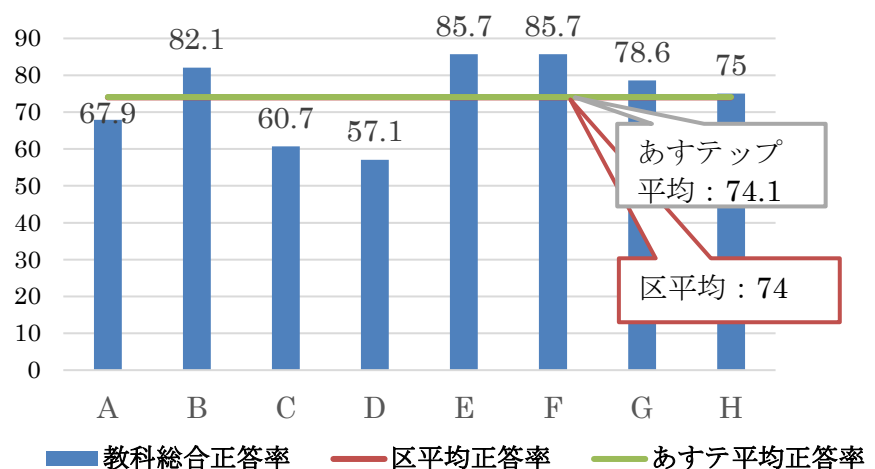
ウ 通級生や保護者を対象にしたアンケート

(3) 調査項目の内容について

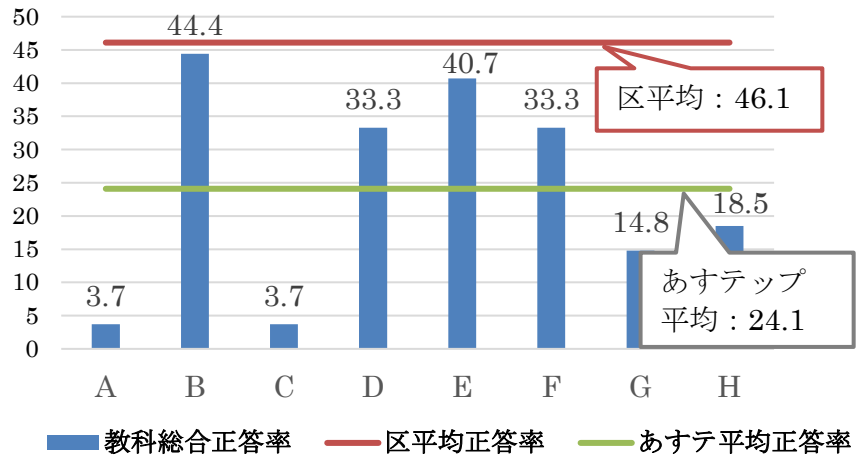
ア 学力・意識調査の中学校全体との比較（通級生のうち学力調査を受験した3年生8人の結果

(ア) 学力調査では、国語の平均点は中学校全体と同じであったが、数学と英語の平均点は中学校全体より20点以上低く差が大きかった。また、数学と英語は通級生の個々の学力にも大きな差があった。個別指導による基礎学力の定着に加え、学力の高い生徒へは応用力を養う指導も必要である。

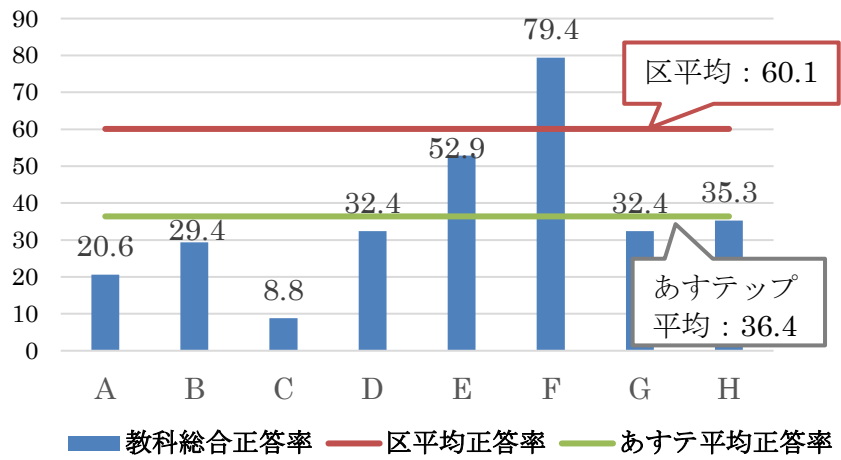
通級生の正答率と区平均（国語）



通級生の正答率と区平均（数学）



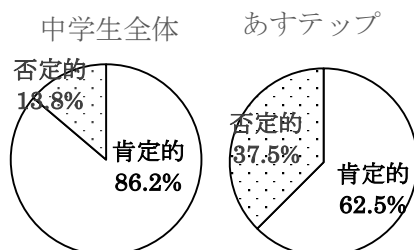
通級生の正答率と区平均（英語）



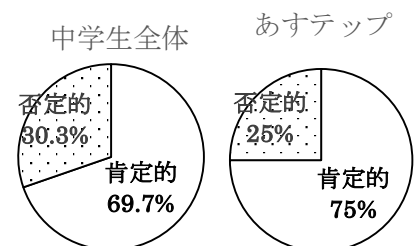
(イ) 意識調査では、全体的には中学校全体よりも数値が低いものもあるが、以下②③④の設問は全体より肯定的な数値が高かった。

また、前年度に比較して肯定的な意識も増えており、あすテップの活動が寄与していると考えます。

① 学校に行くのが楽しい

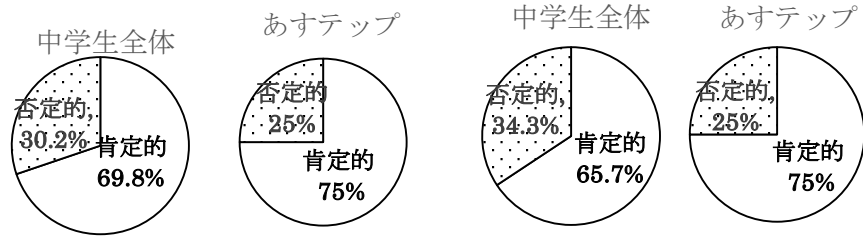


② わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している



③ 自分にはよいところがあると思う

④ 将来の夢や目標の実現に向かって努力したり、その方法を工夫・改善したりしている



肯定的意識の年度比較

項目	R4 年度	R5 年度	増減
① 学校に行くのが楽しい	60%	62.5%	+2.5
② わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している	40%	75%	+35
③ 自分にはよいところがあると思う	60%	75%	+15
④ 将来の夢や目標の実現に向かって努力したり、その方法を工夫・改善したりしている	40%	75%	+35

イ チャレンジ学級や設置校との比較

(ア) 1週間当たりの通級率では、あすテップは70%が週3日以上通級しており、チャレンジ学級より定着率が高い。

教室	2回/週まで	3回/週以上
あすテップ	29.4%	70.6%
チャレンジ 西新井	61.0%	39.0%
〃 綾瀬	64.7%	35.3%
〃 竹の塚	47.4%	52.6%

(イ) 生徒一人当たりのSC面談(85回/年)も多く、きめ細やかなフォロー体制が確立されている。

(参考:設置校の生徒一人当たり面談回数(0.3回/年))

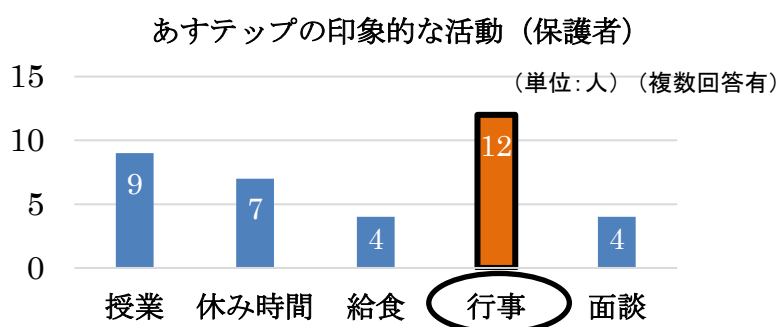
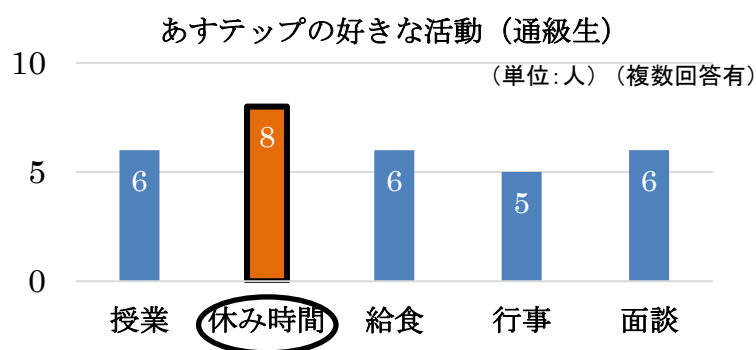
ウ 通級生及び保護者アンケート

(ア) 在籍校との関係では、通級生の86%、保護者の71%が繋がりを保ちたいと回答する一方、特例校と仮定したあすテップに転校してもよいとなったのは、通級生が14%

保護者が50%に留まった。在籍校との繋がりを保ちたいというニーズが伺える。

項目	通級生	保護者
在籍校と関係を持ち続けたい	86%	71%
あすテップに転校してもよい	14%	50%

(イ) あすテップの活動のうち、通級生は休み時間、保護者は行事を評価している。少人数支援の利点を生かして、通級生が孤立しないよう、指導員が声をかけている。



(ウ) 通級による変化として、通級意欲や学習意欲が向上、他者理解が進んだと回答しており、学校以外の居場所での活動による良い結果が出ている。

項目	通級生	保護者
登校(通級)への意欲の向上	79%	86%
学習意欲の向上	86%	71%
他者への理解が進んだ	71%	36%
生活習慣の改善	71%	64%

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	私立学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）との連携（案）について																																																																	
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課																																																																	
内容	<p>不登校児童・生徒への支援として、区と東京みらい中学校との連携（案）について報告する。 なお、令和6年度については開校初年度であることから、東京みらい中学校と協議し、以下の内容で実施する予定。</p> <p>1 連携（案）の内容</p> <p>(1) チャレンジ学級・あすテップ指導員や区立学校教員が、東京みらい中学校の授業を見学・視察する。 (2) 区と東京みらい中学校が、ICT活用の実践例や好事例を情報共有する。 (3) 不登校の生徒（チャレンジ学級・あすテップの通級生）が、東京みらい中学校を運営する学校法人三幸学園の専門学校で体験授業をして、進路・キャリア形成に活かす。 (4) チャレンジ学級・あすテップ指導員や区立学校教員が、学校法人三幸学園が運営する通信制高校の選定基準や特徴を情報共有し、進路選択のミスマッチを防止する。 (5) 東京みらい中学校や不登校支援NPO、区内フリースクール等との連携のための連絡会を実施する。</p> <p>2 スケジュール（案）</p> <table border="1" data-bbox="427 1243 1380 1608"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">連携内容</td> <td></td> <td rowspan="2">連絡調整・視察</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td colspan="3">授業見学実施（4～5回程度）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="4">ICT活用の実践例、好事例の情報共有の会議（年4～5回）</td> <td></td> <td>事例集作成</td> <td>周知</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>通信制高校の選定基準や特徴を情報共有</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>体験授業</td> <td></td> <td>体験授業</td> <td></td> <td>体験授業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>連絡会 顔合わせ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>連絡会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>連絡会</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今後の方針</p> <p>(1) 令和6年度当初予算案の議決を受けて実施する。 (2) 東京みらい中学校と連携・協力し、徐々に連携内容を増やしていく。 (3) 不登校支援の状況等の実態調査を踏まえ、連絡会に参加する区内NPOやフリースクール等の団体を徐々に増やすとともに、連絡会実施回数も併せて増やしていく。</p>	年月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	連携内容		連絡調整・視察					授業見学実施（4～5回程度）									ICT活用の実践例、好事例の情報共有の会議（年4～5回）					事例集作成	周知				通信制高校の選定基準や特徴を情報共有				体験授業		体験授業		体験授業				連絡会 顔合わせ					連絡会						連絡会	
年月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																					
連携内容		連絡調整・視察					授業見学実施（4～5回程度）																																																											
				ICT活用の実践例、好事例の情報共有の会議（年4～5回）					事例集作成	周知																																																								
		通信制高校の選定基準や特徴を情報共有				体験授業		体験授業		体験授業																																																								
	連絡会 顔合わせ					連絡会						連絡会																																																						

文教委員会報告資料

令和6年3月15日

件名	NPO法人カタリバによるオンライン支援事業「room-K」について							
所管部課名	こども支援センターげんき教育相談課							
内容	<p>NPO法人が実施している不登校の子どもへのオンライン支援事業について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 概要 リモートで活動する全国の支援者と様々なデジタルツールの活用、学校・行政・支援者との連携により、不登校の小中学生に対し、仮想空間（メタバース空間）でオンラインによる質の高い伴走支援と学びの場づくりを実現する。</p> <p>2 経過・進捗状況 (1) 7月末 NPO法人カタリバと「不登校生徒へのオンライン支援事業の連携・協力に関する協定書」を締結 (2) 8月～11月 学校配付端末のアクセス制限の確認及び利用可能とするためのシステム対応 (3) 8月～12月 リストアップした候補者10人へ利用意思を確認し、4人申込み。 （辞退者6人の理由：学校の登校状況改善1人、家庭学習支援事業参加2人、本人の参加意思なし2人、保護者から連絡なし1人） (4) 12月～1月 利用意思確認が取れた4人の参加申込書受理 (5) 1月～2月 対象者4人のオンライン支援事業の利用開始 (6) 2月2週目 NPO法人カタリバが1月から支援を開始した対象者2人の月次報告レポートを区へ提出</p> <p>3 支援生徒の状況</p> <table border="1" data-bbox="408 1503 1347 1895"> <thead> <tr> <th data-bbox="408 1503 504 1608">学年</th> <th data-bbox="504 1503 844 1608">開始前の状況</th> <th data-bbox="844 1503 1347 1608">現在の支援状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="408 1608 504 1895">中学2年生</td> <td data-bbox="504 1608 844 1895">月1～2回のげんきでの面談と6月頃から別室登校を開始し、9月頃から少しずつ給食時に登校している。</td> <td data-bbox="844 1608 1347 1895">週1回のオンライン面談を継続している。回を重ねるに連れて好きなことの話やテーマに沿った話ができるようになってきた。</td> </tr> </tbody> </table>		学年	開始前の状況	現在の支援状況	中学2年生	月1～2回のげんきでの面談と6月頃から別室登校を開始し、9月頃から少しずつ給食時に登校している。	週1回のオンライン面談を継続している。回を重ねるに連れて好きなことの話やテーマに沿った話ができるようになってきた。
学年	開始前の状況	現在の支援状況						
中学2年生	月1～2回のげんきでの面談と6月頃から別室登校を開始し、9月頃から少しずつ給食時に登校している。	週1回のオンライン面談を継続している。回を重ねるに連れて好きなことの話やテーマに沿った話ができるようになってきた。						

中学1年生	母と一緒に放課後登校は2～3回できたが、6月以降は放課後も来られず、家庭訪問でも会えていない。外出もできていない。	週1回のオンライン面談を継続している。チャットやリアクションの絵文字でコミュニケーションを取ることができた。
中学1年生	相談室・保健室・別室等に不定期に登校。家族以外の人との関わりはほとんどない。	保護者に対してルールの説明、デバイスの確認、インターネット回線の確認、生徒に対して簡単なゲーム、チャットの利用を行った。
中学1年生	ほとんど登校できておらず、外出もほぼ出来ていない。担任は家庭訪問、オンラインの提案等するもどれも繋がっていない。	オンライン説明会に参加し、カタリバへオンラインで正式に申込みを行った。

4 今後の方針

令和6年度当初予算案の議決を受けて、引き続き4人の支援をモデル事業として継続していく予定